

件 名

令和5年度埼玉県教科用図書選定審議会の答申（第2次）について

提出理由

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項及び同法施行令第8条の規定に基づき、埼玉県教科用図書選定審議会から答申があったので、別紙のとおり報告します。

概 要

答申事項

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

（義務教育指導課）



令和5年5月31日

埼玉県教育委員会 様

埼玉県教科用図書選定審議会
会長 柿沼 光夫



教科用図書採択に関する答申（第2次）

令和5年4月13日開催の教育委員会で決定された諮問事項について、下記のとおり答申いたします。

【諮問事項】

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

記

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方のうち「参考資料」については、別添「調査資料」を参考に、採択の対象となる教科用図書について、その特徴を示したものになるようにするとともに、公正中立を欠くことがないよう留意すること。

(別添)

令和6年度使用小学校用教科用図書
調査の観点及び調査資料

埼玉県教科用図書選定審議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
26 信 教	一般社団法人信州教育出版社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
116 日 文	日本文教出版株式会社
207 文教社	株式会社文教社
208 光 文	株式会社光文書院
224 学 研	株式会社 Gakken

資料の中で記載している「QRコード」は、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

国語科（国語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○日常生活に必要な国語の特質（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を理解し適切に使うことができるように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、どのような工夫がされているか。 ○言語活動を通して、言語能力を育成するためにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うために、どのような工夫がされているか。 ○児童の言語感覚（言葉に対する正誤・適否・美醜などの感覚）を養うために、どのような工夫が見られるか。 </p> <p> <読書に親しむ態度を育成するための工夫> ○読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を形成するために、どのような工夫が見られるか。 </p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○漢字・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の言語能力の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新編 新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方に関するページでは、児童の学習上のつまずきを教材として取り上げて文法知識を理解・定着させ、表現の場で生かすような工夫がある。 ○「読むこと（説明文）」と「書くこと」の学習の間に「情報のとびら」を位置づけ、「関係」「論理」「整理」「調査」の4つの観点で系統立てた教材を扱い、言葉の力の習得と活用を促すよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」では、「対話をする」「話を聞く」「話し合う」「話す①」「話す②」の5系統の単元の学習を、6年間を通してスパイラルで学習し、目的や条件に応じた話し方や聞き方が身につくように工夫されている。 ○「読むこと」と「書くこと」で学習内容や教材の内容が重なる単元を前後に続けて設定しており、「読むこと」と「書くこと」の学習を関連付けながら行い、考えを深めることができるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを明示し「見通す」「取り組む」「振り返る」の課題解決的な学習過程で構成し、主体的に言葉の力を獲得できるように工夫されている。 ○入学前の経験に寄り添い、学びを円滑につなぐことができるように工夫されている。 ○伝統的な言語文化について扱う「季節の足音」「伝えたい言の葉」（2年以上）や、巻末付録の「学習で使う言葉」「言葉の広場」により、多くの語に出会い、言葉の使われ方や味わい方などを実感できるように工夫されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館や、地域の図書館などの社会教育施設に関する教材を設定し、自分の知りたい情報を得る方法を理解できるように工夫されている。 ○読書に親しむために、読む教材に関連した本を案内文と表紙写真で紹介したり、著名人の読書体験が掲載されたりしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードを読み取ることで、学習時に参照できるコンテンツや自主学習に対応したコンテンツを閲覧、利用することができるように工夫されている。 ○多層指導モデル MIM を取り入れた特殊音節や助詞の教材、学力調査の課題分析を基にした教材が掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年4月の教材は全て見開き完結構成で、分ち書きは2年下巻までとなっている。 ○物語文と説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年は、上下巻、5・6年は年間1冊となっている。 ○学習ページでは、上段に学習活動の展開、下段にノート例や対話例など具体的な学びの姿を示し、学習が見わたせるように工夫されている。 ○教材の冒頭で絵や写真を見開きで示し、学習意欲を高めるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>ひろがる言葉 小学国語</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方に関するページでは日常の言語場面を題材とし、学習への興味関心を高め知識を深められるようにして、再び生活場面で活用できる工夫がある。 ○教材の中で学習した「情報の扱い方」を、体系的にまとめたページを設け、文の理解や表現のために情報をどのように扱うかを示し、他の教材・教科や実生活にも活用できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」では、話し合い、発表、報告、説明、討論、パネルディスカッションなどの多彩な言語活動が扱われ、目的意識や必然性が重視された児童の実生活に結びついた活動により、話し方や聞き方が身につくように工夫されている。 ○「読むこと」で学習した表現方法を使って書く活動や、学習のまとめとして感想文や報告文等を書く活動が設定されており、「読むこと」と「書くこと」を関連させて、考えを深めることができるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭で1年間の見通しを持ち巻末で学習の振り返りをするすることで、その後の学習や実生活に生かしていこうという意欲を高められるように工夫されている。 ○1年生では、楽しく安心して言葉の学びに慣れていけるように工夫されている。 ○伝統的な言語文化について扱う「言葉の文化」（1年下～）や、巻末付録の「言葉の木」「学ぶときに使う言葉」「大事な言い方」をたしかめようにより、多くの語に出会い、言葉の使われ方や味わい方などを実感できるように工夫されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館、公共図書館や文学館等地域の施設に関する教材を設定し、本の探し方や情報の集め方等を写真を用いて分かりやすく伝えるように工夫がされている。 ○読書に親しむために、読む教材に関連した本を案内文と表紙写真で紹介したり、読書経験の交流、表現活動を中心とした読書単元を設定したりしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QR コードを読み取ることで、学習時に参照できる資料等をウェブサイト上で閲覧、利用することができるように工夫されている。 ○学習の展開、学習の留意点、メモやカード、ノートなどの制作物の例示は、領域を超えて統一デザインで掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○分かち書きは2年上巻まで。全学年でふき出し内の改行位置を工夫している。 ○物語文と説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」を付け、行を見つけたり指示したりしやすいように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年とも上下巻の分冊になっている。 ○「学習のてびき」の中に、学習活動を支える図解や児童の反応例を掲載し、主体的・対話的で深い学びにつながるように構成されている。 ○各教材の言葉を使った文作りで、語彙の増加と定着を図るように工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国語</h1>	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方に関するページでは、「問いかけ」をきっかけに、児童が適切なことばの使い方を意識し、語彙を広げられるような工夫がある。 ○情報の扱いに特化した教材を「関係」「整理」の2つの観点で取り上げ、「情報どうしの関係を押さえる学習」を説明文の後に、「情報の整理のしかたや方法を学ぶ学習」を書く教材の直前に位置付け、学習との関連を図るよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」では、言葉の準備運動（アイスブレイク）、コミュニケーションコラム、対話の練習などの多彩な言語活動が扱われ、よりよく聞き、伝え、話し合う方法が身につくように工夫されている。 ○読む教材で学んだ文章構成や表現方法などの形式を使って書く活動を行うように各学年で単元が設定されており、「読むこと」で学習したことを活用して「書くこと」の学習を進めることができるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びの流れを視覚化し、自分の問いから個別最適・協働的な学びで深め、自分の学びを実感する振り返りで、次の学びにつなげられるように工夫されている。 ○1年生の学ぶ意欲と確かな言葉の力を育むように工夫されている。 ○伝統的な言語文化について扱う「季節の言葉」（2年以上）や、巻末付録の「言葉の宝箱」「伝え合うための言葉」「学習に用いる言葉」により、多くの語に出会い、言葉の使われ方や味わい方などを実感できるように工夫されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館、公共図書館、文学館などに関する教材を設定し、本の探し方や情報の集め方等を写真を用いて分かりやすく伝えるように工夫されている。 ○読書に親しむために、読む教材に関連した本を案内文と表紙写真で紹介したり、読書を日常的に広げていくための読書単元を設定したりしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを読み取ることで、教科書の内容に連動したコンテンツを閲覧、利用することができるように工夫されている。 ○思考ツールを使って情報を整理する方法を学ぶページや学んだ読み方を使って読む関連作品が掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○2年途中から文節による分かち書きー2・3文節まとめた分かち書きー分かちのない通常の手書き方へと段階的に移行するように工夫されている。 ○全学年共通で新出漢字を四角で囲み、見つけやすいように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年は上下巻、5・6年は年間1冊となっている。 ○学習ページでは、二段構成で上段に活動の流れ、下段に学習ポイントが書かれ、学習を進めやすくするように工夫されている。 ○各領域で「問いをもとめ」を掲げ、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 	

国語科（国語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	320	314	273
	2年	332	334	332
	3年	342	326	332
	4年	332	348	336
	5年	298	346	294
	6年	298	330	312
2 巻末資料、付録等の総ページ数 ※ ページ番号のない部分も含む	1年	43	47	26
	2年	52	60	56
	3年	56	60	56
	4年	50	68	60
	5年	29	80	44
	6年	29	84	52
3 単元数	1年	31	14	15
	2年	23	26	26
	3年	21	23	24
	4年	21	24	24
	5年	20	21	23
	6年	20	23	23

○領域別教材数等について ※（ ）内は、資料編等の中の教材及び資料数

内容	学年	東書	教出	光村	
1 教材数 ※ 扉の部分の詩も教材数に含む	1年	67(18)	65(20)	61(12)	
	2年	64(13)	54(23)	66(19)	
	3年	86(17)	65(24)	73(20)	
	4年	83(15)	65(33)	80(18)	
	5年	64(9)	59(30)	70(10)	
	6年	71(8)	56(31)	75(16)	
2 領域別教材数	① 話すこと・聞くこと	1年	9(2)	10(1)	11(1)
		2年	6	5(2)	7
		3年	5	6(3)	6(2)
		4年	5	6(2)	6(1)
		5年	5	5(2)	6(2)
		6年	5	6(2)	6(2)
	② 書くこと	1年	8(5)	15(2)	11(1)
		2年	7	8(1)	9
		3年	6(1)	6(1)	8(2)
		4年	6	7(1)	9
		5年	5	5(2)	8(1)
		6年	5	7(1)	8(1)
	③ 読むこと	1年	15	14(1)	15
		2年	11(1)	13(2)	20(1)
		3年	11(1)	12(1)	25(1)
		4年	11(1)	13(2)	18(2)
		5年	10(1)	15(2)	19(1)
		6年	14(1)	12(3)	22(5)
	④ 言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	1年	28(9)	25(9)	26(8)
		2年	34(5)	21(10)	25(9)
		3年	58(10)	34(10)	40(7)
		4年	55(8)	35(20)	44(6)
		5年	39(5)	28(16)	40(4)
		6年	42(4)	30(14)	36(13)

○文種別教材数について ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	教出	光村
1 物語・小説・随筆	1年	8(1)	7(2)	7(1)
	2年	5(1)	6(2)	5(3)
	3年	5(1)	5(1)	5(1)
	4年	5(1)	4(2)	5(1)
	5年	5(1)	4(2)	4(1)
	6年	5(1)	5(5)	4(5)
2 詩・短歌・俳句 ※ 巻頭詩、文語調の短歌・俳句を含む	1年	5	6	5
	2年	9	4	11
	3年	31	17	23
	4年	18	18	28
	5年	17	10(5)	18
	6年	20	5	22
3 説明的文章	1年	4	4	4
	2年	4	3(1)	5
	3年	4	4	5
	4年	4	4	5(1)
	5年	4	4	5(1)
	6年	4	4	8(1)
4 文語調の文章 ※ 漢文・和歌・川柳等を含む	1年	0	0	0
	2年	0	2	0
	3年	0	0	2
	4年	11	9(8)	0
	5年	6	10(4)	12
	6年	7	7(4)	2

○その他 ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	教出	光村
学校図書館の活用に関する教材数 (読書案内・読書活動を含む)	1年	4	4(3)	3(2)
	2年	3(1)	3(4)	2(2)
	3年	3(1)	3(4)	2(2)
	4年	3(1)	3(4)	2(2)
	5年	3(1)	3(4)	2(1)
	6年	3(1)	3(4)	2(1)
QRコードの数	1年	66	22	34
	2年	105	32	24
	3年	109	37	30
	4年	113	38	29
	5年	98	40	28
	6年	95	43	25

国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○目的に応じて文字を書く学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○児童が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <p>○毛筆と硬筆の関連を図った学習について、どのような工夫が見られるのか。</p> <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <p>○各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成するために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用具・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、児童の言語能力の発達の段階に応じてどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい 書写</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年以上は、文字を整えて書くための知識や大切な技能のポイントについて、「書写のかぎ」でその時間の学習事項を示している。 ○基本点画の書き方の特徴を、キャラクターの動きや擬態語で示している。毛筆での筆使いを扱う場面では、顔のついたマークが穂先の動き方を示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問いかけの文言で思考を促し、考えを話し合う活動を入れたり、各学年のまとめ教材では、自分でめあてを選んだり設定したりして取り組む活動を入れている。 ○キャラクターの吹き出しで、気を付けて書くべきことを考える手助けをしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2～6年で「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返ろう」の学習過程を示し、見通しをもって主体的に学べるようにしている。 ○全学年で「学びを生かそう」の単元を設け、「できるようになったよ」や「書写展覧会」などを「書写のかぎ」として自分の思いを伝えることができるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の後に「生かそう」が用意され、学習内容を確認しながら硬筆で書いたり、漢字表からもさがして書いたりするようにしている。 ○水書用筆等については、「いろいろな道具をつかって書いてみよう」というページで取り上げ、その後の学習に使えるようにしている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活に広げよう」というページで、ポスターや新聞の書き方など、日常生活や各教科における具体的な活用の仕方が、学年や学習内容に応じて示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年の巻頭に、鉛筆の持ち方が右利き用と左利き用で示されており、両利きの動画が見られるQRコードがついている。 ○QRコードは、動画・シュミレーション・アニメーションの3種類で整理されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○同じマークが使用されたり、字形や配列等の分野ごとに色分けされたりしている。 ○巻末にある「書写のかぎ」には既習のポイントが示されたページ数が表記され、そのポイントを振り返るようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての達成に向けて、「書写のかぎ」で注目すべきポイントの提示と、単元の終わりの「ふりかえろう」の提示で、まとめやすくなるよう工夫されている。 ○めあてに対して同じ学習内容の漢字を二つ以上扱うことで、繰り返し練習ができ、めあての達成に向けて粘り強く取り組めるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>小学 書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年で「めあて」が示され、習得したい知識や技能が明確になるようにしている。3年以上は、「ここが大切」にめあて達成のための要点を示している。 ○運筆のリズムを、「すうっ」「とん」などの擬態語やキャラクターの一連の動作で示している。毛筆では、筆の向きや筆圧の動きをマークで示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年以上は「考えよう」の具体的な言葉でめあてへの気付きを促したり、高学年では話し合う活動や評価し合う活動を取り入れたりしている。 ○「ふりかえろう」で、めあてに対する自分の達成度を確認するようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年で「つかむ」「考える」「確かめる」「振り返る」、3年以上は「生かす・広げる」を加えて学習過程を示し、見通しをもって学べるようにしている。 ○全学年で「書いてつたえ合おう」の単元を設け、「ありがとうカード」「年賀状、絵葉書」など、今までに様々な人と関わってきたことを実感できるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の前後に硬筆で「ためし書き」と「まとめ書き」を設けて、教科書に書くようにしている。 ○水書用筆等については「水しょようしのつかい方」というページで取り上げ、すいしょのマークのあるところで活用できるようにしている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「レッツ・トライ」というページで、ノートの書き方やメモの取り方など、日常生活や各教科における具体的な活用の仕方が、学年や学習内容に応じて示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年の巻頭に、鉛筆の持ち方が右利き用と左利き用で示されており、両利きの動画が見られるQRコードがついている。 ○QRコードは、動画・ワークシート・資料の3種類で整理されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の学習では、練習用紙の選択の仕方や作り方が示されている。 ○同じマークを使用したり、学習内容の進み具合に応じてキャラクターが成長し、学習の流れをつかみやすく工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」が各単元の始めに明確に示され、「考えよう」でめあてを達成するために必要な着眼点を示し、「ふりかえろう」で確認すべき観点が明示されている。 ○「知りたい文字のせかい」で文字を伝統的な言語文化として触れられるよう工夫されている。 	

書名 項目	<h1>書写</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年以上は「ねらい」と「学習の進め方」と「たいせつ」がセットで示され、知識や技能における要点を適宜確認しながら進められるようしている。 ○基本点画の書き方や筆使いを、キャラクターの姿勢や体の動きで示している。毛筆での筆使いを扱う場面では、顔のついたマークが穂先の動き方を示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年では「なぞとき」「ふりかえろう」で考えが整理できるようにしたり、3年以上では「考えよう」で思考する場面を設けたりしている。 ○5・6年では、課題に対する考えと理由について話し合う活動を取り入れている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○3～6年で「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の学習過程を示し、見通しを もって 学べるようにしている。 ○6年の「私の文字」という単元で、著名人の直筆記名やインタビューが掲載されていて、自分の文字や生き方について意識を向けられるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の後に「生かそう」が用意され、学習したことを確かめながら硬筆で書くようにしている。 ○水書用筆等については「水ふでで書いてみよう」というページで取り上げ、単元にマークを付けて活用する場面を示している。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書写広げたい」というページで、手紙や横書きの書き方など、日常生活や各教科における具体的な活用の仕方が、学年や学習内容に応じて示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年の巻頭に、右利き用の鉛筆の持ち方が示されており、両利きの動画が見られるQRコードもついている。 ○QRコードは、動画・写真・アニメーション・資料の4種類で整理されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のポイントを示す「たいせつ」には学習した順に番号がふられ、巻末のまとめで振り返るようにしている。 ○キャラクターからのヒントで学習の要点が分かりやすくなるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「ねらい」を達成するための学習の進め方が簡潔にまとめられており、達成できたか欄にチェックして学習の振り返りをすることができるようようにしている。 ○1・3年に「スタートブック」が構成され、最初に押さえるべき基本を確認している。 	

国語科（書写） 調査資料 2

○分量について

内容		学年	東書	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数		1年	52	52	52
		2年	48	44	44
		3年	58	62	66
		4年	54	62	54
		5年	54	54	50
		6年	54	54	58
2 綴じ込み、巻末資料等の総ページ数 ※ 目次も含む		1年	17	19	21
		2年	22	18	19
		3年	34	30	28
		4年	30	31	30
		5年	33	28	28
		6年	34	33	38
3 単元数		1年	5	4	5
		2年	8	3	4
		3年	8	8	6
		4年	7	8	6
		5年	8	9	6
		6年	7	6	5
4 QRコードの数		1年	21	21	29
		2年	20	11	25
		3年	27	20	38
		4年	24	18	34
		5年	23	17	34
		6年	21	19	31

○領域別等の教材数などについて

内容		学年	東書	教出	光村
1 総教材数 ※ 本編中における主たる手本の数		1年	42	48	44
		2年	36	32	37
		3年	27	32	33
		4年	26	34	24
		5年	23	26	25
		6年	21	25	21
2 手本の種別数	毛筆	1年	0	0	0
		2年	0	0	0
		3年	11	9	11
		4年	10	11	10
		5年	11	9	10
		6年	9	11	10
	硬筆	1年	35	42	36
		2年	31	26	33
		3年	5	10	11
		4年	4	6	1
		5年	2	6	2
		6年	0	3	2
3 扱い種別教材数の	毛筆と硬筆の関連を図った教材数	1年	0	0	0
		2年	0	0	0
		3年	6	6	8
		4年	6	8	7
		5年	4	5	6
		6年	5	3	5

○領域別等の教材数などについて

扱 い 種 別 材 数 の	各教科等や日常生活に生かす視点に 立った教材数	1年	7	6	0
		2年	5	6	0
		3年	5	7	8
		4年	6	9	7
		5年	6	6	6
		6年	7	8	5

○指導事項数について

内容		学年	東書	教出	光村
1	姿勢、用具の持ち方について	1年	6	6	6
		2年	5	5	6
		3年	5	5	8
		4年	4	5	4
		5年	3	4	4
		6年	3	3	5
2	筆順について	1年	20	26	22
		2年	11	22	16
		3年	7	13	4
		4年	5	17	9
		5年	9	12	6
		6年	3	12	8
3	文字の形、大きさについて	1年	19	25	20
		2年	18	15	11
		3年	9	15	14
		4年	16	23	19
		5年	9	17	14
		6年	10	15	14
4	配列、字配りについて	1年	0	0	0
		2年	0	0	0
		3年	7	8	3
		4年	7	7	11
		5年	9	6	10
		6年	10	16	13

社会科（社会）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解することができるように、どのような工夫が見られるか。 ○様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることができるように、どのような工夫が見られるか。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりすることができるように、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味・関心、学校や地域の実態等に対応するため、事例の選択、資料の取り上げ方や配列には、どのような工夫が見られるか。 ○学び方や調べ方を身に付けさせるため、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が親しみ進んで利用できるようにするために、表記・表現に、どのような工夫が見られるか。 ○児童の問題意識を高めるために、表記・表現に、どのような工夫が見られるか。 ○児童の理解を助けるために、本文の記載等には、どのような工夫が見られるか。 ○児童が意欲的に学習を進められるようにするために、凡例等には、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい社会</h1>	2 東 書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○語句を側注「ことば」で解説し、巻末にその索引が設けられている。また、「まとめる」で語句を生かすよう促すことで学習内容の定着が図れるようにされている。 ○「まなび方コーナー」では、学習場面に応じた調査方法や資料の見方、読み取り方を示し、全学年を通じて系統的に資料活用の技能を習得できるよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」では、情報収集の仕方や考え方を提示し、児童の思考の流れに沿った学習過程が示されている。また、「いかす」では、自分のこととして社会への関わり方を選択・判断できるよう工夫されている。 ○「まとめる」では、新聞作りや紙芝居、年表やプレゼンテーションソフトの活用等、多様なまとめ方や視点、表現方法が示されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」を示したり、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」を毎時間明記したりすることで、主体的に学習が進められるよう工夫されている。 ○「いかす」で現代的な諸課題について自分たちにできることを考えることで、地域社会の一員としての自覚などを育てるよう工夫されている。 <p>＜学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって問題解決的な学習に取り組むために、「つかむ」では学習計画を立てる場面が設定されている。また、「まとめる」を中心に振り返りを意識した様々な活動場面が設定されている。 ○学習内容を生かして社会的事柄に参画したり、提案・発信したりする「いかす」の場面が設定され、現代的な諸課題に関わるために工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○事例地に偏りがないう、学校や地域の実態などに対応した配慮がなされている。 ○QRコードコンテンツが豊富で、特に思考ツール等知識・技能への手掛かりとなるよう工夫されている。 ○現代的な諸課題に関する内容が豊富に掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターの台詞を通し、社会的事象の見方・考え方を生かした問いが示されている。 ○単元の学習問題や本時のめあてが明示されている。 ○学習の基本となる語句が、「ことば」で取り上げられている。 ○学習段階やその段階に応じた学習活動が明示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○单元ごとに学習段階を示し、問題解決的な学習を促すよう工夫されているとともに、側注の問い・資料で、資料の見方、読み取り方を示し、全学年を通じて社会的事象の見方・考え方を働かせ、考察できるよう配慮されている。 ○ICT端末を生かした学びを充実させるために、それぞれの場面でQRコードを読み込むと、端末の活用の仕方や資料の詳細等が閲覧できるよう工夫されている。 	

書名 項目	<h1>小学社会</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○語句を側注「キーワード」で取り上げ、巻末にその索引が設けられている。また、「まとめる」で語句の振り返りを促し、学習内容の定着が図れるようにされている。 ○「学びのてびき」では、学習場面に応じた調査方法や資料の見方、読み取り方を示し、全学年を通じて系統的に資料活用の技能を習得できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元を通じた思考の連続や深まりを促すよう、見開きの末尾に「次につなげよう」が設定されている。「社会的な見方・考え方」では、時間や場所、違いや工夫、関連付け等、何をどのように考えるのかということが示されている。 ○「まとめる」では、思考ツールで学習を整理する方法やICTの活用方法等、多様なまとめ方が例示され、自分の考えを表現しやすいよう工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の進め方」を示したり、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」を毎時間明記したりすることで、主体的に学習できるよう工夫されている。 ○「つなげる」で自分たちにできることを考えたり、選択・判断をしたりする場面を設けることで、地域社会の一員としての自覚などを育てるよう工夫されている。 </p> <p> <学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「この時間の問い」と「次につなげよう」を毎時間例示することで、各時間の「問い」がつながり、単元を通して一貫した追究ができるよう工夫されている。 ○「まとめる」「つなげる」では、ICT端末を活用した表現活動等、対話的な学習を促すための多様な方法が例示されている。また、SDGsへの取組等、現代的な諸課題にも配慮した学習方法が例示されている。 </p>	
資 料	<p> ○事例地に偏りがないう、学校や地域の実態などに対応した配慮がなされている。 ○QRコードコンテンツが豊富で、特にクイズ等児童の興味・関心をもたせるよう工夫されている。 ○現代的な諸課題に関する内容が豊富に掲載されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○キャラクターの台詞を通し、社会的事象の見方・考え方を働かせた学びが促されている。 ○単元の学習問題や本時のめあて、次時へのつながりが明示されている。 ○学習の基本となる語句が、「キーワード」で取り上げられている。 ○3・4年生では、毎時の学習活動が3段階で簡潔に明示されている。 </p>	
総 括	<p> ○思考の流れに沿って児童が主体的に学習できるよう配慮されているとともに、「解説」「学びのてびき」「キーワード」といった側注が適所に配置され、理解や思考を深められるよう工夫されている。 ○巻頭にICT端末の使い方が明記されている。また、それぞれの場面でQRコードを読み込むことで、資料の詳細や学び方が分かるよう工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>小学社会</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○語句を側注「キーワード」「むずかしいことば」で解説し、巻末にその索引を設け、学習内容の定着が図れるようにされている。 ○「学び方・調べ方コーナー」では、調査方法や表現方法、読み取り方を学習場面に応じて示し、系統的に資料活用の技能を習得できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○考えさせたい社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係に迫るために、資料を見やすく配置し、焦点化されている。また、学習問題に対する自分の考えを整理し、選択・判断できるような工夫として「さらに考えたい問題」が設定されている。 ○単元末に学習問題について話し合う様子が例示され、関係図カードやICTの活用方法等、多様なまとめ方が示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭に「社会科の学習の進め方」や「この教科書の使い方」を明記することで、見通しをもって主体的に学習を進められるよう工夫されている。 ○「さらに考えたい問題」や「未来につなげる」において、単元ごとに発展的な内容を紹介し、地域社会の一員としての自覚などを育てるよう工夫されている。 </p> <p> <学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○学習問題を解決していく中でより深く考えたい問題を「さらに考えたい問題」として、協働的な学習の場面とともに例示し、更に深まった問題を追究できるよう工夫されている。 ○「考えよう！SDGs」や特設ページ「未来につなげる」を設け、学習内容に関連付けて現代的な諸課題をSDGsで多角的に捉えられるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○事例地については、学年や学校、地域の実態に応じて取り上げられている。 ○QRコードコンテンツが豊富で、特にシミュレーション等があり児童の興味・関心をもたせるよう工夫されている。 ○現代的な諸課題に関する内容が豊富に掲載されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○キャラクターの台詞を通し、社会的事象の見方・考え方を育むためのアドバイスがされている。 ○単元の学習問題や本時のめあてが明示されている。 ○学習の基本となる語句が、「キーワード」で取り上げられている。 ○社会科の学習の進め方や身に付けたい力が、脚注のインデックスで明示されている。 </p>	
総 括	<p> ○資料の読み取り場面や話し合いの場面において、吹き出しで児童の発言を明示し、学習内容の定着や思考の助けとなるよう配慮されているとともに、思考の連続性を意識し、問題解決的な学習を展開しやすいように単元構成が工夫されている。 ○現代的な諸課題に関するコンテンツが豊富に掲載され、QRコードを読み込むと、ICT端末の活用の仕方や資料の詳細等が閲覧できるよう工夫されている。 </p>	

社会科（社会） 調査資料 2

<3年>

○内容別ページ数

内容	東書	教出	日文
(1) 身近な地域や市（町・村）の様子	34	36	34
(2) 地域に見られる生産や販売の仕事	48	48	48
(3) 地域の安全を守る働き	28	34	32
(4) 市（町・村）の様子の移り変わり	22	30	28
その他	8	28	24
ページ数	140	176	166

○構成 ※「 」内は、単元名を示す

東書	「わたしたちのまち みんなのまち」 「はたらく人とわたしたちの暮らし」 「暮らしを守る」 「市のうつりかわり」
教出	「わたしたちのまちと市」 「はたらく人とわたしたちの暮らし」 「地いきの安全を守る」 「わたしたちの市の歩み」
日文	「わたしたちの住んでいるところ」 「わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと」 「安全な暮らしを守る」 「市のようすと暮らしのうつりかわり」

○埼玉県に関する社会的事象等 ※地図中の地名・県名等を除く

東書	なし
教出	なし
日文	市の様子と暮らしのうつりかわり (P、128~155) 川越市

○項目別取り扱い数 ※設定されている数

項目	東書	教出	日文
発展的な学習	14	13	14
学び方や調べ方	22	22	34

○項目別資料数 ※掲載されている数

項目	東書	教出	日文
地図・絵図	106	74	86
年表	2	2	3
児童の作品・ノート例	52	43	50
写真	297	315	331
統計資料	13	9	18
読み物資料・文献資料	17	16	24
関係者（○○さん）の話	22	40	61
注記（語句解説）	35	11	34
QRコード	40	37	91
折り込み図版（振り込みページの枚数）	1	1	4

< 4 年 >

○内容別ページ数

内容	東書	教出	日文
(1) 都道府県の様子	26	20	20
(2) 人々の健康や生活環境を支える事業	40	52	48
(3) 自然災害から人々を守る活動	22	34	38
(4) 県内の伝統や文化、先人の働き	36	46	48
(5) 県内の特色ある地域の様子	36	52	32
その他	8	12	26
ページ数	168	216	212

○構成 ※「 」内は、単元名を示す

東書	「わたしたちの県」「住みよいくらしをつくる」 「自然災害からくらしを守る」 「きょう土の伝統・文化と先人たち」 「特色ある地いきと人々のくらし」
教出	「県の地図を広げて」「健康なくらしとまちづくり」 「自然災害にそなえるまちづくり」 「地域で受けつがれてきたもの」 「昔から今へと続くまちづくり」「わたしたちの県のまちづくり」
日文	「わたしたちの県」「健康なくらしを守る仕事」 「自然災害から人々を守る活動」 「地域の伝統や文化と先人のはたらき」 「わたしたちの住んでいる県」

○埼玉県に関する社会的事象等 ※地図中の地名・県名等を除く

東書	見沼代用水 (P、123) さいたま市
教出	見沼代用水と見沼新田の開発 (P、130～151) さいたま市 秩父夜祭り (P、11) 秩父市
日文	荻野吟子 (P、164～165) 熊谷市

○項目別取り扱い数 ※設定されている数

項目	東書	教出	日文
発展的な学習	24	14	28
学び方や調べ方	17	20	25

○項目別資料数 ※掲載されている数

項目	東書	教出	日文
地図・絵図	127	121	169
年表	12	12	14
児童の作品・ノート例	45	62	44
写真	329	338	424
統計資料	14	34	22
読み物資料・文献資料	16	27	41
関係者 (○○さん) の話	40	79	67
注記 (語句解説)	55	35	58
QRコード	42	46	103
折り込み図版 (振り込みページの枚数)	2	4	1

<5年>

○内容別ページ数

内容	東書	教出	日文
(1) 我が国の国土の様子と国民生活	60	52	58
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	58	62	66
(3) 我が国の工業生産	48	52	56
(4) 我が国の産業と情報との関わり	36	34	42
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	40	40	42
その他	10	20	24
ページ数	252	260	288
(上巻)	124	上下巻なし	上下巻なし
(下巻)	128	一冊	一冊

○事例として取り上げている主な地域 ※主たる事例のみを記載

	東書	教出	日文
我が国の国土の様子	・北海道・海津市 ・孺恋村・沖縄県	・北海道・佐世保 ・沖縄県	・北海道・海津市 ・孺恋村・沖縄県 ・旭川・佐賀
我が国の食料生産	・庄内平野・鹿児島漁港 ・関東平野・福島盆地 ・鹿児島県枕崎市・垂水市	・南魚沼市・根室港 ・長島町・藍住町・岩手町 ・甲州市・阿蘇地方	・庄内平野・銚子漁港 ・佐賀県・宮崎県 ・有田市・安芸市
我が国の工業生産	・豊田市・大阪府堺市 ・石川県輪島市・富岡県高岡市 ・大田区・鯖江市	・荻田町 ・太田区 ・東大阪市	・鈴鹿市・たつの市 ・君津市・東大阪市
我が国の産業と情報	・姫路市 ・東京都港区	・佐賀県	・福岡県・豊岡市 ・久留米市
国土の自然環境	・白神山地・京都市 ・水俣市	・岩手県田老地区 ・土佐町 ・北九州市	・四日市市・大阪府 ・奈良県・大和川 ・東京都多摩地区・狭山丘陵

○埼玉県に関する社会的事象等 ※地図中の地名・県名等を除く

東書	関東内陸工業地域（下P、7） 川越市 狭山市
教出	首都圏外郭放水路（P、218）春日部市
日文	なし

○項目別取り扱い数 ※設定されている数

項目	東書	教出	日文
発展的な学習	34	18	20
学び方や調べ方	23	22	21

○項目別資料数 ※掲載されている数

項目	東書	教出	日文
地図・絵図	180	144	179
年表	4	8	5
児童の作品・ノート例	63	75	54
写真	551	592	472
統計資料	90	98	115
読み物資料・文献資料	63	77	76
関係者（○○さん）の話	59	70	66
注記（語句解説）	86	44	63
QRコード	65	38	174
折り込み図版（振り込みページの枚数）	2	2	0

<6年>

○内容別ページ数

内容	東書	教出	日文
(1) 我が国の政治の働き	54	60	50
(2) 我が国の歴史上の主な事象	156	170	156
(3) グローバル化する世界と日本の役割	48	52	38
その他	14	14	38
ページ数	272	296	282
(政治・国際編)	112	(一冊)	(一冊)
(歴史編)	160		

○歴史年表の構成等 ※教科書中の主たる歴史年表

東書	時代、西暦、日本の主なできごと、主な人物（生まれた年、亡くなった年） 世界の主なできごと
教出	時代、西暦、世紀、日本の主なできごと（政治や産業、文化） 教科書に出てくる主な人物、世界の主な出来事、中国
日文	時代、西暦、日本のおもなできごと、おもな人物、人々のようす 中国・朝鮮のできごと、何年前、自分の年表を作ってみよう

○埼玉県に関する歴史的事象・社会的事象等 ※地図中の地名・県名等を除く

東書	子育て支援の願いを実現する政治（政治・国際編P、36～44）さいたま市 日本の経済や産業の発展に貢献（歴史編P、127）深谷市 川口市の福祉事業（政治・国際編P、45）
教出	さきたま史跡の博物館（P、88）稲荷山古墳出土の鉄剣（P、90）行田市
日文	安心して、暮らし続けられるまちづくりに向けて（P、230～231）川口市 稲荷山古墳（P、80～81）行田市

○日本と関係の深い国として取り上げている国

	主たる事例として取り上げている国
東書	アメリカ合衆国、中華人民共和国、フランス、ブラジル
教出	アメリカ合衆国、中華人民共和国、ブラジル連邦共和国、大韓民国
日文	アメリカ合衆国、中華人民共和国、ブラジル連邦共和国、大韓民国

○項目別取り扱い数 ※設定されている数

項目	東書	教出	日文
発展的な学習	32	26	34
学び方や調べ方	21	24	11

○項目別資料数 ※掲載されている数

項目	東書	教出	日文
地図・絵図	289	258	260
年表	26	20	32
児童の作品・ノート例	78	58	59
写真	658	499	428
統計資料	28	36	48
読み物資料・文献資料	122	141	86
関係者（○○さん）の話	20	21	34
注記（語句解説）	96	28	104
QRコード	57	64	185
折り込み図版（折り込みページの枚数）	3	3	3

社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料の活用の仕方など、地図帳を自由に活用できる知識や技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○地図を効果的に活用して、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○地図帳を日常的に活用し、地図帳への親しみをもち、問題解決のための教材として効果的に活用する技能や意欲を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><地図・資料の特徴> ○基本図や資料図などは、それぞれ新しい信頼できる資料に基づいて作成され、社会的事象についての理解や思考を深めるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学び方や調べ方を身に付ける学習や、作業的で具体的な体験を伴う学習を促すために、資料はどのように提示されているか。</p> <p>○資料の取り上げ方は、児童の発達の段階を踏まえ、どのような配慮がなされているか。</p> <p>○索引など、活用を図るために、どのような配慮がなされているか。</p>	
表記・表現	<p>○児童の課題意識を高めるために、表記・表現はどうか。</p> <p>○児童が親しみ意欲的に活用するために、表記・表現はどうか。</p> <p>○色彩・配色を含め、土地利用の様子や等高線（高さ）などはどう表現されているか。</p> <p>○割り付けにはどのような配慮がなされているか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">新しい地図帳</h2>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「地図のきまり」や「地図帳の使い方」では、方位や地図記号、縮尺、索引、地形表現、土地利用といった基本的な地図の読み方が示されている。 ○地球儀について、実際に活用している場面の写真を使い説明されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻末の「日本の自然災害」で、日本列島全体の災害地図から位置や空間的な広がり注目できるよう工夫されている。また、地形や気候などとの関係から、災害が起きる要因や防災対策について考察できるよう工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○児童が知的好奇心をもてるような問いと作業のコーナー「ホップ、ステップ、マップでジャンプ」が設けられ、楽しみながら学習できるよう工夫されている。 </p> <p> <地図・資料の特徴> ○各地の世界遺産やラムサール条約や世界ジオパークの登録地、歴史の舞台、農林水産物、伝統工芸品等について、個別の記号を設けて地図中に示されている。 </p>	
資 料	<p>○地図の成り立ちや地図帳の使い方に関する資料、「地図のきまり」を載せ、地図帳導入期の指導に配慮して構成されている。</p> <p>○索引は、地名の前に地名の種類を表す記号が示され、児童の発達に応じた指導ができるよう赤、黒の2色で色分けして、チェック欄が設けられている。</p> <p>○統計資料は、都道府県と世界の国ごとに整理され、地方・州別に色分けされている。</p> <p>○ICT端末等を用いて、学習を深められるような都道府県別の地図、ドローン動画、クイズ等のコンテンツが入ったQRコードが適所に設けられている。</p>	
表記・表現	<p>○各図の着眼点や課題等を、「ホップ、ステップ、マップでジャンプ」のコーナーやキャラクターの吹き出しを用いて提示されている。</p> <p>○陸の高さは4～9段階、海の深さは3～7段階で色分けし、大都市周辺の地図では土地利用の様子が7色で表現されている。</p> <p>○日本の地域地図では、その地図が全体のどの辺りなのかが示されている。</p>	
総 括	<p>○「地図のきまり」や「地図帳の使い方」などを掲載するとともに、情報量を精選することで、様々な発達段階の児童にとって使いやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○日本の伝統文化の特設ページや多様なQRコードコンテンツを設ける等、社会科をはじめ、様々な教科や場面で活用できるよう工夫されている。</p> <p>○後半の資料ページでは、自然環境や産業、交通、貿易、歴史、伝統文化、各種統計、自然災害等に関するコーナーが設けられている。</p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">楽しく学ぶ 小学生の地図帳</h2>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 帝 国 </div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「地図のやくそく」や「地図帳の使い方」では、方位や地図記号、土地利用、陸の高さ、索引、縮尺といった基本的な地図の読み方が示されている。 ○「地図のなりたち」で、地図の基本を丁寧に学べるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「日本の自然災害と防災」で、実際に起きた自然災害や起こりうる自然災害の事例等をまとめ、防災・減災に取り組む人々の努力が掲載されている。また、児童が身を守るための行動を考えられるように防災マップの作り方が示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「地図マスターへの道」を設け、児童が知的好奇心をもちながら、スモールステップで地図活用能力や知識を身につけられるよう工夫されている。 </p> <p> <地図・資料の特徴> ○各地の世界遺産やラムサール条約や世界ジオパークの登録地、貴重な動植物、天然記念物、農林水産物等について、個別の記号を設けて地図中に示されている。 </p>	
資 料	<p>○地図の成り立ちや地図帳の使い方に関する資料、「地図のやくそく」を載せ、地図帳導入期の指導に配慮して構成されている。</p> <p>○索引は、地名の前に地名の種類を表す記号が示されるとともに、種類ごとに赤、青、緑、黒の4色で色分けして表現されている。</p> <p>○統計資料は、都道府県と世界の国ごとに整理され、地方・州別に色分けされている。</p> <p>○ICT端末等を用いて、学習を深められるような動画やクイズ、アニメーション、VRなどのコンテンツが入ったQRコードが適所に設けられている。</p>	
表記・表現	<p>○各図の着眼点や課題等を、「地図マスターへの道」のコーナーやキャラクターの吹き出しを用いて提示されている。</p> <p>○陸の高さは1～6段階、海の深さは1～6段階で色分けし、大都市周辺の地図では土地利用の様子が8色で表現されている。</p> <p>○日本及び世界の地域地図では、その地図が全体のどの辺りなのかが示されている。</p>	
総 括	<p>○「広く見わたす地図」や「地図のやくそく」などを掲載し、導入期の児童をはじめ、様々な発達段階に応じた指導ができるよう工夫されている。</p> <p>○歴史のテーマ地図などの特設ページや多様なQRコードコンテンツを設け、社会科をはじめ、様々な教科や場面において学習を支援する工夫がされている。</p> <p>○後半の資料ページでは、自然環境や自然災害、産業、各種統計、SDGs（適所にアイコンと特設コーナー）、世界遺産等に関するコーナーが設けられている。</p>	


社会科（地図） 調査資料 2

○内容別ページ数・地図数

内容	ページ数		地方・地域全体を表す地図の数		地方・地域の一部を表す地図の数		資料図の数		写真		QRコード			
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国		
巻頭・巻末														
・ 地図、地図帳の使い方	8	14					15	22	0	11	3	7		
・ 世界地図	6	6	2	2	1	1	0	1	0	0	1	2		
・ 都道府県の学習	3	5	1	2	1	4	0	0	0	0	1	2		
日本														
・ 全体	2		1		1		0		4		1			
・ 九州地方	6	8	2	3	13	21	3	1	1	0	2	4		
・ 中国地方、四国地方	4	7	2	4	2	4	0	1	1	0	2	3.5		
・ 近畿地方	6	11	1	2	4	7	0	0	2	2	2	3.5		
・ 中部地方	6	7	1	2	4	3	1	2	0	0	3	3.5		
・ 関東地方	7	10	1	2	5	8	1	0	2	0	2	2.5		
・ 東北地方	3	5	1	2	1	1	0	1	0	0	1	2		
・ 北海道地方	2	6	1	2	2	6	0	1	0	0	1	3		
・ 日本とそのまわりの国	2	2	1	1	0	0	1	1	4	8	1	0		
世界														
・ 大陸と海洋	2	2	1	1	0	0	1	6	7	4	0	1		
・ 全体														
・ アジア	3	3	2	2	0	0	0	0	0	3	1.5	1		
・ アフリカ	2	1	1	1	0	0	5	0	4	2	1	0		
・ ヨーロッパ、ロシア	3	3	2	2	0	0	0	0	10	2	1.5	1		
・ 南北アメリカ	2	4	1	1	0	2	0	1	0	4	1	1		
・ オセアニア	2	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0		
統計資料等														
・ 自然環境、災害	7	8					19	29	33	11	2	3		
・ 資源、産業、貿易	5	6					16	21	4	5	3	2		
・ 歴史、文化	6	6					11	14	25	2	3	2		
・ 世界遺産		1						1		15		1		
・ SDGs		2						3		4		1		
・ その他	1	1					5	0	2	0	1	2		
・ 日本の統計表	2	2	項目数		東書17 帝国43							1	1	
・ 世界の統計表	2	2	項目数		東書12 帝国18							1	1	
索引	10	9											0	1
総数	102	132	22	30	34	57	78	105	100	74	37	51		

- ※ 2ページに4地方が渡っている場合は、0.5ページで加算する。
- ※ 「地方・地域全体を表す地図」の例としては、関東地方全体が示されている地図、アジア全体が示されている示されている地図など。
- ※ 「地方・地域の一部を表す地図」の例としては、埼玉県の地図、東京都中心部の地図、アメリカ合衆国の地図など。
- ※ 「資料図」は、主題図、（分布図、土地利用図など）、鳥瞰図、イラストマップ、断面図などとし、各地方の位置図、国旗、キャラクターなどは含めない。

算数科調査資料 作成の観点

書名		発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○日常の事象を数理的に処理する技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うために、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <数学的活動を充実させるための工夫> ○数量や図形を見だし、進んで関わる活動ができるように、どのような工夫が見られるか。 ○日常の事象か見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。 ○数学の学習場面から見いだした問題を解決する活動ができるように、どのような工夫が見られるか。 ○数学的に表現し伝え合う活動ができるように、どのような工夫が見られるか。 </p>	
資 料	<p>○挿絵・写真・図表等などの扱いに、どのような特色が見られるか。</p> <p>○統計資料など学習効果を高めるために、どのような特色が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語、単位などの表現には、どのような特色が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい算数</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">東 書</div>
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○数学的な見方・考え方を働かせ、既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを設定することで、分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開になるよう工夫されている。各単元の練習問題と対応した補充問題が難易度別に2種類用意されており、個別最適化された学びに活用することができる構成になっている。復習ページでは、つまずきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるように工夫されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○図や式に表す学習活動が取り入れられており、思考し表現できる工夫がされている。問題を解決した後、さらに発展的に考え理解を深めたり、数学的な見方・考え方の価値を再確認したりするための補助発問が設定されている。問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立てて実行するページが新設されている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができるよう、学校や日常生活との関連を重視した場面設定や活動が取り入れられている。巻頭の「私と算数」では、著名人が算数と日常のつながりを説き、算数の身近さや有用性が実感できるように工夫されている。また、よりよく問題解決する姿を例示し、その態度や力を身に付けられるように工夫されている。 </p> <p> ＜数学的活動を充実させるための工夫＞ ○既習を生かして考えることを促進する場面で、吹き出し「同じように考えると」が新設されている。まとめの後に、新たな課題を見だし、さらに追究していく展開が設定されている。 ○単元の導入「単元プロローグ」では、日常生活の場面を取り上げ、学習動機を明確にした上で問題解決ができるように工夫されている。単元末「いかしてみよう」では、算数の有用性や楽しさを実感できるように、学んだことを活用できる場面を設定している。 ○まとめの後に「それなら」を提示することで、学習したことをもとに発展的に考え、数学的活動が連続していくように工夫されている。 ○巻頭の「学びのとびら」において対話的な問題解決の方法が記載されている。また、対話を通してそれぞれの考え方を伝え合う構成になっている。 </p>	
資 料	<p> ○綴じ込み教材は、厚みのある用紙を採用し、児童が操作しやすいように工夫されている。 ○個人の属性や価値を尊重し、性別・服装・人種のバランスが配慮されている。 ○単元導入前に学習動機を創出するオープニングムービー等が見られる QR コードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○全学年に数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。 </p>	
表記・ 表現	<p> ○すべての文章で文節改行をしており、文意がつかみやすくなるよう工夫されている。 ○問題やまとめなどの重要事項は枠で囲んで強調して記されている。 ○ページ番号を白抜き処理し、他の数と区別しやすく記されている。 ○UD 教科書体を用いて従来より文字を太くして視認性を向上するように工夫されている。 ○カラーUD の観点から、イラスト、写真、図などについて視認性に配慮がされている。 </p>	
総 括	<p> ○単元前半は吹き出しや補助発問等を丁寧に設定し、後半は吹き出し等を段階的に減少させることで、身に付けた資質・能力を駆使して高めることができるよう工夫されている。児童が考えることを重視し、丁寧さを継承しつつ、紙面のシンプル化も図っている。 ○数学的に考える資質・能力を育成するために、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を基盤とした単元構成になっている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">たのしい算数</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○毎時の適用問題が掲載され、巻末補充問題が全単元にわたって設定されており、時間調整や習熟度別学習に対応しやすい構成になっている。また、単元末の「たしかめ問題」には「しっかりチェック」を設け、習熟度別指導などの個に応じた指導の際に活用できるように工夫されている。リンクマークやインデックス、索引等により、既習事項を振り返りながら学習を進めやすくなるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決の流れを具体的に提示したり、答えや考え方の一部を見せずに児童たちの気付きを促す場面を設けたりしている。本時のまとめでは、考え方に焦点をあてた「発見！考え方」が掲載されている。様々な場面で使える数学的な見方・考え方を巻頭に掲載し、学習を進める中でこれまでの考え方と統合することができるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元の導入などで、児童自身が問題や疑問を見だし、主体的に学習に取り組めるように題材が工夫されている。巻頭の「算数の学び方」では、学習の進め方を算数の問題解決の流れとしてサイクル状に示し、生活や他教科に学習を生かす様子が掲載されている。「ふくろう先生になるほど算数教室」では、興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりできるように工夫されている。</p> <p><数学的活動を充実させるための工夫> ○数学的な見方・考え方が「ひらめきアイテム」によって示されている。数学的な見方・考え方を活用しながら数学的活動に取り組み、考える楽しさが感じられるように工夫されている。 ○児童自らがめあてを導くことができるよう、めあての前に吹き出しが設けられている。「学んだことを生かそう」では、学習したことを他の問題や身の回りの生活などに生かす問題が設定されている。 ○前時との相違点や問題解決後の疑問を吹き出しで示すことで、問題を見だし、新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。 ○巻頭の『『たのしい算数』の使い方』に「考えや話し合いのれい」が記載されている。また、「話し合いながら学ぼう」には、対話的な学びの方法が例示されている。</p>	
資 料	○環境に配慮した紙と植物インキを使い、光媒体を利用した抗菌・処理がされている。 ○キャラクターに外国にルーツをもつ児童や車椅子に乗っている人を入れている。 ○無料のデジタルコンテンツが用意されており、対応するページにQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具は扱いやすいように厚手の紙でミシン目が入っている。	
表記・表現	○すべての文章で文節改行をしており、文意がつかみやすくなるよう工夫されている。 ○児童が見いだすこと、先生が教えることを赤枠と青枠で区別されている。 ○ページ番号は太い書体で枠囲みをするとともに、判別しやすくなるよう工夫されている。 ○UD フォントを使用し、デジタル教科書でも読みやすい配慮がされている。 ○カラーUD の観点から、色覚の特性によらず視認できるよう配色が配慮されている。	
総 括	○主体的・対話的で深い学びを実現するため、具体的で丁寧な紙面構成となるよう工夫されている。巻頭に数学的な見方・考え方を示し、思考力、判断力、表現力等を伸ばすことができるような工夫がされている。 ○毎時の適用問題を設けるとともに、単元末の「たしかめ問題」を工夫することで知識・技能の確実な習得を目指す構成になっている。	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">みんなと学ぶ 小学校 算数</h1>	1 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学 図</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表的な数学的な見方・考え方を「考え方モンスター」として巻頭に提示し、それを本文中に示すことで、児童が自然に活用できるように配慮されている。児童がつまづきやすい内容を扱う際は、知識・技能を身に付けられるように段階的に理解できるように工夫されている。巻末問題に「もっと算数」を設けて、補充的・発展的に課題に取り組むことができるように構成されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「前学年で見つけた見方・考え方」を巻頭に掲載し、活用した数学的な見方・考え方がどのような場面で扱われたかを振り返ることができるように工夫されている。また、言葉での説明、ブロックや図、表を使った説明などの活動を取り入れ、表現力を育めるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元導入では、児童の視点に立った日常に潜む疑問を取り上げることで、主体的に取り組めるように工夫されている。児童の疑問が展開途中に記載されているため、授業の流れに連続性が生まれ、児童が主体となって問題解決的な学習ができるように工夫されている。単元末には、学習を通して解決できたことをまとめたり、新たな疑問から学習の系統性を実感させたりするように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方の具体例が「考え方モンスター」で示されている。活用場面を例示することで、児童が意識して数学的な見方・考え方を活用できるように工夫されている。 ○単元の導入「はてなを発見」では、日常生活など身近な場面での疑問を取り上げ、生活との関連を意識しながら問題を解決できるように工夫されている。「まなびをいかそう」では、学んだ知識を生きた知識として活用できるような問題が設定されている。 ○「つながりの？」や「つなげたいな」を提示することで、自ら問題を見だし、新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。 ○巻頭には前学年、巻末には該当学年で見つけた数学的な見方・考え方が記載されている。また、単元末には、対話を通して考え方を深める工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○AB版を採用し、開きやすく作業や書き込みなどがしやすい製本になっている。 ○男女のイメージを固定化せず、人権に対し差別を助長しないよう配慮されている。 ○QRコードには、活動に応じたマークがあり、内容が分かりやすいように、配慮されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○全学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具は扱いやすいように厚手の紙でミシン目が入っている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文節改行にすることで読み取りやすく、問題解決に重点をおけるよう配慮されている。 ○公式、算数の用語、重要事項などは囲みや色付けで強調されている。 ○UDフォントを使用することで、読みやすい文字になるように工夫されている。 ○カラーUDの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすいように色使いが工夫されている。 ○提示資料では色名を入れたり、形を変えたりする等、区別できるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や学習の中から自分たちで問題や疑問を発見し、学んだ知識・技能を確認・活用する中で、さらに新たな問いを提示していくなど、児童に寄り添った展開が工夫されている。学びの連続性を感じながら主体的・対話的に学習を進められる構成になっている。 ○児童の問いが次の学びにつながる場面では、児童の問いを吹き出しの形で示し、次の学びへの関心・意欲を高めるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	17 教 出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「算数で使いたい見方・考え方」を巻頭に掲載し、繰り返し参照しながら学習できるように構成されている。巻末の練習問題には、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」を設定し、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるように配慮されている。各単元末には、典型的な誤答が見られる問題にマークをつけて意識化を図り、「考えるヒント」を掲載することで、問題解決のきっかけをつかめるよう工夫がされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方を顕在化し、後半で活用する場面を設けている。単元末の「4コマ漫画」で、学んだことのよさや見方・考え方を楽しく振り返ることができるよう工夫されている。「4コマ漫画」を通して領域を貫く数学的な見方・考え方を心に残るようにし、学年を超えて、問題解決に生かせるように構成している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業開き教材」を設け、新学年の始めに、問題解決の楽しさを味わいながら学習の進め方や学ぶ態度を学級で共有できるように工夫されている。また、問題発見力・問題解決力・問題追求力の3つの力に焦点をあてたモデル単元をそれぞれ設定し、導入「どんな学習がはじまるかな」では、身近な題材から算数の問題を発見し、単元末では活用問題を通して「何ができるようになったか」を実感できるように工夫されている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方が「つながるミカタ」で顕在化されている。数学的な見方・考え方を理解して活用することで働きを実感することができるように工夫されている。 ○単元導入では、身近な題材から算数の問題を発見する場が設定されている。単元末「学んだことを使おう」や学年末「算数を使って考えよう」では、算数の学習と日常の場面をつなげて「わかる・できる」から「使える」学力に高めるよう工夫されている。 ○問題解決過程を振り返り、新たな問いを「だったら!？」の吹き出しで示すことで、数学的活動が連続して展開できるように工夫されている。 ○巻頭に、前学年までに使ってきた「算数のミカタ」と「算数の考え方」が記載されている。また、対話を通して数学的な見方・考え方を伝え合い、学び合う構成になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○紙の強度を維持しながら、軽量の紙を使い、抗菌加工で、アレルギー対応がされている。 ○言葉遣いや服の色など、固定的なイメージで性を区別しないように配慮されている。 ○まとめアニメーションや作図手順、操作を伴った試行錯誤可能な教材のQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○2年生以上の学年に、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文節改行にすることで読み取りやすく、問題解決に重点を置けるように配慮されている。 ○公式、算数の用語、重要事項などは囲みや色付けで強調されている。 ○文章は平易で簡潔、かつ理解しやすいように配慮されている。 ○UD デジタル教科書体を採用し、紙でもデジタル画面でも見やすいように工夫されている。 ○色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーUD デザインに配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○見いだした数学的な見方・考え方を顕在化して単元末で活用するとともに、巻末「学びのマップ」で、学年を超えて既習事項を振り返ることができるようにするなど、学びのつながり・深まりを実感できる構成になっている。 ○児童の問いを重視し、「はてな?→なるほど!→だったら!？」で学びを進め、問題発見力・問題解決力・問題追求力を育てるよう構成されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">わくわく 算数</h1>	6 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div>
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○巻頭に前学年の学習における数学的な見方・考え方を整理して掲載し、本学年の学習に生かすことができるように工夫されている。巻末に、基本問題と挑戦問題を掲載し、個に応じた学びに対応できるようになっている。学びのつながりを感じながら進められるよう、巻頭の「もくじ」や巻末の「学びをつなげよう」で既習事項とのつながりが示されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○問題解決の中で、分かったことを表現したり、よりよい方法を考えたりする活動が例示されている。また、既習事項を生かす場面では、見通しを立てたり、根拠をもって考えを進めたりする様子が例示されている。思考力、判断力、表現力等を日常の生活に生かし、伸ばしていくことができるよう「学びをいかそう」のコーナーを設けている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○児童が興味・関心をもって学習に向かうことができるよう、身の回りの事柄や既習事項から学習が展開されている。また、児童の問いから学びが始まるようにするとともに、単元末では、学習全体を振り返って児童自らが大切だと感じたことを生かす活動が例示されている。学び続けようとする態度を育むため、「学びをいかそう」では日常の場面で算数を活用する課題が取り上げられている。 </p> <p> ＜数学的活動を充実させるための工夫＞ ○数学的活動の過程で児童が働かせる数学的な見方・考え方が紙面上に可視化されている。大切だと思ったことを明文化することで、児童自身が数学的な見方・考え方を価値付けることができるように工夫されている。 </p> <p> ○単元の初めには、日常生活場面の諸問題を取り上げ、算数との関わりを実感しながら学習を進め、問題を解決できるように工夫されている。「学びをいかそう」では日常の場面で算数を活用する課題を取り上げ、算数の有用性を感じるような問題を設けている。 </p> <p> ○児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、自ら課題を発見し、新たな数学的活動ができるように工夫されている。 </p> <p> ○巻頭の「学習の進め方」において、「みんなで話し合おう」の場面が設定されている。また、他者に説明する際に使う「算数で使う言葉」の話型が記載されている。 </p>	
資 料	<p> ○用紙には、軽くて印刷が鮮明な再生紙を採用し、作業がしやすい製本となっている。 </p> <p> ○写真やイラストにおいて性別・国籍などで役割を固定化しないように工夫されている。 </p> <p> ○自学で取り組める QR コードが教科書紙面に掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 </p> <p> ○学習において、数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。 </p>	
表記・ 表現	<p> ○全学年、文章を文節で改行することで、文意を捉えやすいように工夫されている。 </p> <p> ○新しい用語や記号、単位などは太字で書かれ、ルビがふられている。 </p> <p> ○課題やめあてはマークで強調し、定義や公式等は囲みや色付けで強調されている。 </p> <p> ○UD フォントを採用し、個人差を問わず伝わるように配慮されている。 </p> <p> ○配色は色覚の特性によらず学びやすいように MUD 協会の検証を受けている。 </p>	
総 括	<p> ○価値付けたい数学的な見方・考え方を強調したり、学び合いで深めたいポイントを可視化したりするとともに、学びのつながりを重視することで、数学的な見方・考え方を軸とした「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように工夫されている。 </p> <p> ○既習事項を確認して新しい学習へと向かうスパイラルの構成で学びやすくし、「練習」や「復習」のコーナーを設け、確かな理解の定着が図れるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○児童が主体的に学習を進めることができるように、各時間に「めあて」と「まとめ」を明示し、学習の流れを分かりやすくする工夫がされている。また、巻末「算数マイトライ」では、習得・活用・探究を意識した教材を掲載し、習熟に応じた自学自習が可能になるよう工夫されている。単元末に「間違いやすい問題」を設け、つまずきやすい内容への対応が工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元内に「見方・考え方」を提示し、数学的に思考・判断・表現する力が育つように工夫されている。また、児童の発言などを用いて、問題解決の方法の見通しを立てたり、結果の見積もりを行ったりしながら展開するよう工夫されている。また、複数の単元や領域を結びつけた内容を用いて、理由や方法などを説明する問題が扱われている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「自分でみんなで」では、問題解決の過程で自分の考えを表現したり、他者と協働して取り組んだりする場面を提示し、児童による主体的な算数の学びを実現できるように工夫されている。また、「使ってみよう」では作業的・体験的な活動や、学習したことを実際場面に活用する活動の充実を図るとともに、「算数ジャンプ」では探究的な問題を取り上げ、算数の楽しさやよさを感じることができるよう工夫されている。</p> <p><数学的活動を充実させるための工夫> ○単元アプローチで日常の事象や既習事項について考察しながら単元の導入を行うように工夫されている。実際場面に活用する経験を得ることで、数学的活動の楽しさやよさを感じられるように工夫されている。 ○各単元の初めに、児童の興味や好奇心に働きかける題材を取り入れることで、身近に算数を感じながら日常生活と算数の関連を図って解決できるように工夫されている。「使ってみよう」を設定し、学習内容を日常生活に生かす活動が取り入れられている。 ○既習の学習内容との相違点や疑問を吹き出しで示すことで、数学的活動のつながりを意識して問題解決できるように工夫されている。 ○巻頭の「学び方」の説明に「学び合おう」と明記されており、話し合いを促すよう工夫されている。巻末には、「算数で使いたい見方・考え方」が一覧で示されている。</p>	
資 料	<p>○B5判で、軽量化した再生紙を使用し、表紙は表面加工され、耐水性に配慮されている。 ○男子、女子などの性による服装や役割の固定化がないように配慮されている。 ○理解を深めるための動画・アニメーションなどのQRコードが掲載されている。また、プログラミング的思考について取り組めるページが設けられている。 ○全学年に数学的活動に使う資料が設けられており、切り取り用教具には、ミシン目が入っている。</p>	
表記・ 表現	<p>○全学年、文章を文節で改行することで、文意を捉えやすいように工夫されている。 ○当該学年以上の漢字には、ページ初出ごとにルビがふられている。 ○図形に使う色数を抑えたり、グラフの色を見分けやすくしたりするよう配慮されている。 ○教科書体・ゴシック体のUDフォントを採用し、視認性に配慮されている。 ○カラーUDの観点から図形に使う色を抑える等の配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○ページの側注に学習のステップを示したり、巻末の「学び方ガイド」によって算数の学び方を示したり、筋道立てて考えるための着眼点になる「見方・考え方」を配置したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現につながる構成になっている。 ○「学習をたしかに」を単元末に設け、児童のつまずきや数学的な見方・考え方の成長を意識した構成になっている。</p>	

算数科 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	174	182	214	190	196	198
	2年	252	251	316	286	276	308
	3年	280	271	330	310	282	324
	4年	308	295	350	358	298	346
	5年	296	293	364	314	284	330
	6年	270	273	316	292	274	330
	2 巻末資料、付録等のページ数	1年	5	8	35	6	15
2年		41	26	40	45	39	75
3年		48	23	47	48	43	70
4年		51	31	55	75	48	73
5年		44	30	59	61	35	71
6年		74	62	43	81	65	97

○領域別教材数等について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文	
1 総題材数	1年	18	21	18	18	26	20	
	2年	17	17	21	18	17	17	
	3年	20	19	19	19	22	18	
	4年	16	16	23	16	20	18	
	5年	19	19	20	16	18	17	
	6年	13	13	15	12	13	14	
2 領域別教材数	A 数と計算	1年	10	13	11	12	18	13
		2年	10	10	12	11	10	10
		3年	14	13	13	13	16	12
		4年	9	9	14	9	11	11
		5年	8	7	7	6	5	7
		6年	4	4	6	4	4	5
	B 図形	1年	2	2	2	3	3	2
		2年	2	2	2	2	2	2
		3年	2	2	2	2	2	2
		4年	4	4	4	3	4	4
		5年	6	6	6	5	5	5
		6年	5	5	4	4	5	5
	C 測定 変化と関係	1年	5	5	3	2	4	4
		2年	4	4	5	4	4	4
		3年	3	3	2	3	3	3
		4年	2	2	2	2	2	2
		5年	3	4	4	3	6	3
		6年	2	2	2	2	2	2
	D データの活用	1年	1	1	2	1	1	1
		2年	1	1	2	1	1	1
		3年	1	1	2	1	1	1
		4年	1	1	3	2	3	1
		5年	2	2	3	2	2	2
		6年	2	2	3	2	2	2

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文
発展させたり、様々な場面で活用させたりするための課題の数 ※ 問題場面のまとまりをもって1つとカウントする	1年	9	8	15	17	11	11
	2年	19	21	17	19	32	23
	3年	25	31	17	24	29	29
	4年	26	31	23	29	29	28
	5年	32	38	22	26	26	29
	6年	28	41	23	21	25	20
QRコードの数	1年	33	91	69	9	79	78
	2年	121	145	114	65	139	160
	3年	156	171	105	101	142	187
	4年	166	159	89	145	139	179
	5年	170	183	95	113	132	164
	6年	212	158	60	87	86	123

理科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○観察、実験などを行い、問題解決の力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○児童が見いだした問題に対して、予想や仮説をもち、それらを基にして観察、実験などの解決の計画や方法を発想するために、どのような工夫がされているか。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○考えられた仮説に対して、観察、実験などを複数回行ったたり、話し合ったりしながら科学的に解決するために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習効果を高めるために、どのような資料が用意されているか。 ○挿絵、写真、図表などの位置と本文との関連に、どのような工夫がされているか。	
表記・表現	○記号、用語、単位などの使い方に、どのような工夫がされているか。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような配慮がされているか。	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>新しい理科</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察・実験では、準備物の一覧と手順が写真や図を使って示されている。また、単元末に「ふりかえろう」や「たしかめよう」の問題があり、単元で得た知識の復習ができるように工夫されている。さらに、観察・実験の後に「広げよう！理科の発想」の問題があり、学習内容を振り返ることができるように構成されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決の過程を「学びのライン」でつなぎ、学びの流れが示されている。ノートの取り方の参考や「思考力、判断力、表現力等」について振り返りを促すような記述がされている。具体的な対話例を参考に、思考できるように工夫されている。「考えよう」では、思考力、判断力、表現力等を一層育成できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○生命尊重や環境保全に関わる内容には、「環境マーク」を付けている。単元導入の活動「レッツトライ」を設け、児童が自然の事物・現象に触れて主体的に問題を見いだすことができるように工夫されている。児童の疑問を基に、実験の流れを提示し、主体的に問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「理科の学び方」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞が、理科の見方・考え方をどのように働かせるかが示されている。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の過程に沿った構成になっている。また、キャラクターの台詞が問題解決における理科の見方・考え方のヒントになっており、児童が問題を科学的に解決できるように工夫されている。「問題をつかもう」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	○単元冒頭にはダイナミックな写真と問題を見つけるための活動があり、児童が自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されている。 ○各単元にQRコードを使った活用問題があり、学習した内容を深く理解できるように工夫されている。 ○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。 ○授業の流れの中でQRコードによる参考情報や理科ノートが活用できるように工夫されている。	
表記・表現	○UD書体を採用し、字形を判別しやすく読み間違いにくいように工夫されている。 ○色覚の多様性を考慮し、CUDの観点から識別しやすいよう配色やデザインを用いている。 ○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすくするように工夫されている。 ○単元導入のページと節末の「まとめ」では、全ての漢字に振り仮名を付けている。	
総 括	○巻頭で「各学年で学ぶこと」や「理科の学び方」を示し、各学年での学習内容や学習の流れ、問題解決の過程を意識できるように工夫されている。 ○安全に配慮が必要な箇所には、赤で「きけん」のマークを配置し、注意を促している。	

書名 項目	<h1>たのしい理科</h1>	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○観察・実験では、手順やポイントが写真や図を使って示されている。また、単元末の「確かめよう」では、学習事項がキーワード等を用いて児童自ら確認できるように工夫されている。さらに、巻末には、器具の使い方が写真や図を用いて掲載されており、復習できるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○育成を目指す問題解決の力に◆マークを付けて強調し、重点的に育成できるように工夫されている。ノートの例や、具体的な対話例から、児童の発想や表現を引き出すための工夫がされている。「学んだことを生かそう」や「チャレンジ問題」では、思考力、判断力、表現力等を一層育成できるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○生命を尊重する態度を育てる場面や自然環境と人間の共生について考える場面として「環境マーク」を付けている。気付きや疑問、考えのヒントを吹き出しで示し、見通しをもって主体的に学習に取り組めるように工夫されている。「サイエンスワールド」では、学習した内容と生活を関連付けることで、学びを実感できるように工夫されている。</p> <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞ ○「理科の学び方」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞が、理科の見方・考え方をどのように働かせるか理解しやすいように工夫されている。</p> <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞ ○問題解決の過程に沿った構成になっている。また、キャラクターの台詞や会話が問題解決における理科の見方・考え方のヒントになっており、児童が問題を科学的に解決できるように工夫されている。「問題を見つける」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	○単元冒頭にダイナミックな写真と吹き出しを活用した意見例を示すことで、児童が自ら問題を見つけることができるように工夫されている。 ○各単元に活用問題があり、学習した内容を深く理解できるように工夫されている。 ○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。 ○授業の流れの中でQRコードによる参考情報が活用できるように工夫されている。	
表記・表現	○UD書体を採用し、字形を判別しやすく読み間違えにくいように工夫されている。 ○色覚の多様性を考慮し、CUDの観点から識別しやすい配色やデザインを用いている。 ○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすくするように工夫されている。 ○当該学年で学習する漢字には全て振り仮名を付けている。	
総 括	○巻頭で「理科の学び方」と各学年では「特にココ！」を示し、問題解決の過程や各学年で育成を目指す問題解決の力を意識できるように工夫されている。 ○安全に配慮が必要な箇所には、赤で「注意」のマークを配置し、注意を促している。	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">みんなと学ぶ 小学校理科</h1>	1 1 学 図
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察・実験では、準備物のチェック欄があり、手順も写真や図を用いて示されている。また、単元末に「ふりかえろう」の問題があり、復習できるように工夫されている。巻末には、観察・実験のポイントや、理科室の使い方、器具の使い方が掲載されており、復習できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決の過程が記載されている。「考察」では、考える視点を明確に示し、ノート書き方の例や図や表を活用する例が提示されており、思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫がされている。「活用学びを生かそう」では、話し合う活動を取り入れることで思考力、判断力、表現力等を一層育成できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自然を大切にするために気をつけることにマークを付け、人が他の動植物と関わりながら生きている内容を取り上げている。児童が問題解決の過程を明確に意識できるようにページの左にバーで示されている。単元冒頭で身に付けたい力を3つずつ示し、単元末において同じ観点で学びを振り返ることができるように工夫されている。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「科学の芽を育てよう」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞に下線が引かれ、理科の見方・考え方をどのように働かせるかが強調されている。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の過程に沿った構成になるように工夫されている。また、児童が問題を科学的に解決できるよう、理科の見方・考え方について、キャラクターの台詞によって明示されている。「問題をみつけよう」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	<p>○単元冒頭でダイナミックな写真と学習の概要について疑問を交えて示し、児童が見通しをもって問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</p> <p>○QRコードを使った活用問題があり、学習した内容を深く理解できるよう工夫されている。</p> <p>○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。</p> <p>○授業の流れの中でQRコードによる参考情報が活用できるように工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○UD書体を採用し、字形を判別しやすく読み間違えにくいように工夫されている。</p> <p>○色覚の特性をふまえ、CUDの観点から識別しやすい配色を用い、色名を表示している。</p> <p>○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすいように工夫されている。</p> <p>○当該学年の配当漢字には、単元初出に振り仮名を付けている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「各学年で学ぶこと」や「科学の芽を育てよう」を示し、各学年での学習内容や学習の流れ、問題解決の過程を意識できるように工夫されている。</p> <p>○安全に配慮が必要な箇所には、赤で「注意」のマークを配置し、注意を促している。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">未来をひらく 小学理科</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察・実験では、準備物のチェック欄があり、手順が図や言葉を用いて示され、大切な言葉は視覚的に工夫されている。また、単元末の「ふり返ろう」や「確かめよう」で、学習内容の確認ができるように工夫されている。巻末には、器具の説明や理科室の使い方が載っており、確認できるように配慮されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見通しがもてるように問題解決の過程が記載されている。「結果から考えよう」では、結果によって予想が確かめられたか考えを促すように工夫されている。対話例の中に見方・考え方のカギがあり、児童の考えのヒントとなるように工夫されている。「確かめよう」では思考力、判断力、表現力等を一層育成できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○SDGs に関連する資料には該当する目標の SDGs マークを付けている。単元の導入では、児童が話し合いや活動の中で主体的に問題を見だし、解決していく流れを表現できるように工夫されている。単元導入と単元末において、自分の成長が実感できる場面を設け、次の学びに向かう力につながるように工夫されている。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「学習の進め方」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。また、それに合わせたノートのとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞に下線が引かれ、理科の見方・考え方をどのように働かせるかが強調されている。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の過程に沿った構成になるように工夫されている。また、理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの台詞にカギマークが付いており、児童が科学的に問題を解決できるように工夫されている。「見つけよう」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	<p>○単元冒頭にダイナミックな写真とその写真から生まれる疑問が示され、児童が見通しをもって問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</p> <p>○発展的な内容の記述があり、学習した内容を深く理解できるように工夫されている。</p> <p>○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。</p> <p>○授業の流れの中で QR コードによる参考情報が活用できるように工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○ UD 書体を採用し、字形を判別しやすく読み間違えにくいように工夫されている。</p> <p>○色覚の特性をふまえ、CUD の観点から識別しやすい配色を用い、色名を表示している。</p> <p>○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすくなるように工夫されている。</p> <p>○当該学年の配当漢字には、単元初出に振り仮名を付けている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」や「学習の進め方」を示し、働かせたい見方・考え方を明示し、問題解決の過程を意識できるように工夫されている。</p> <p>○安全に配慮が必要な箇所には、「注意・危険」のマークを配置し、注意を促している。</p>	

書名 項目	<h1>楽しい理科</h1>	26 信教
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察・実験では、準備物と手順が写真や言葉を用いて示されている。また、実験の手順のページに実験で扱う器具の使い方が一緒に掲載されており、確認できるように配慮されている。さらに、単元末の「ふりかえろう」では、学習内容が振り返ることができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「理科の学習の進め方」では、見通しをもって観察・実験ができるように問題解決の過程を図に表して記載されている。「結果」では、学年の発達段階に応じて、理科的な用語を使いながら図やグラフ、表などを用いて実験結果や観察記録の記述例が示されており、児童の表現力を育成できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○あらゆる生物が生きる上で、自然界の循環や連鎖が大きく影響している事実を、意識が向くように配慮している。気付きや疑問、考えのヒントを吹き出しで示し、児童が主体的に問題解決できるように工夫されている。単元冒頭には事象提示から問題意識を呼び起こすようなリード文を置き、既習学習や生活経験の想起の場が設定されている。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「理科の学習の進め方」で問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞が、理科の見方・考え方をどのように働かせるか理解しやすいように工夫されている。実験の様子が大きな写真で示され、実験方法がよくわかるように配慮されている。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の過程に沿った構成になるように工夫されている。また、キャラクターの台詞や会話が問題解決における理科の見方・考え方のヒントになっており、児童が問題を科学的に解決できるように工夫されている。「見つけよう、ふしぎなぜ」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	○単元冒頭にはダイナミックな写真と学習の概要を示したリード文があり、児童が見通しをもって問題解決に取り組むことができるように工夫されている。 ○発展的な内容の記述があり、学習した内容を深く理解できるように工夫されている。 ○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。 ○授業の流れの中でQRコードによる参考情報が活用できるように工夫されている。	
表記・表現	○「問題」や「観察」等のマークを白い下地にし、字形が判別しやすいように工夫されている。 ○色覚の多様性を考慮し、CUDの観点から識別しやすい配色やデザインを用いている。 ○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすくなるように工夫されている。 ○当該学年の配当漢字には、単元初出に振り仮名を付けている。	
総 括	○巻頭で「1年間の学習」や「理科の学習の進め方」を示し、季節と関連づけた学習や問題解決の過程のつながりを意識できるように工夫されている。 ○安全に配慮が必要な箇所には、赤で「注意」のマークを配置し、注意を促している。	

書名 項目	<h1>わくわく理科</h1>	6 1 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察・実験では、準備物のチェック欄があり、手順が図や言葉で示されている。また、単元末には「まとめノート」で振り返り、「たしかめよう」の問題で単元毎に学習内容の確認ができるように工夫されている。さらに、各単元で新しく使う器具の扱い方が単元ごとに掲載され、確認できるように配慮されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決の過程を「学びのライン」でつなぎ、学びの見通しがもてるように工夫されている。「考察しよう」では、キャラクターの吹き出しに、見方・考え方マーカーを付け、思考力、判断力、表現力等を働かせることを促すように工夫されている。「活用しよう」では、思考力、判断力、表現力等を一層育成できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○生命を尊重し、自然を愛する心を育てることにつながる場面には、「自然を大切にマーク」を付けている。「くらしとリンク」では、学習した内容が日常生活につながるように工夫されている。単元冒頭の「はじめに考えよう」と同じ問いを単元末で問い直すことで新しく得た知識を再確認し、学びを実感できるように工夫されている。</p> <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「理科の楽しみ方」で問題解決の過程の流れを示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。また、それに合わせたノートのまとめ方が示されており、学習の流れをより意識できるように工夫されている。導入では、既習内容や生活経験との関連から単元の見通しをもたせ、興味・関心を喚起するように配慮されている。キャラクターの台詞に下線が引かれ、理科の見方・考え方をどのように働かせるかが強調されている。</p> <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の過程に沿った構成になるように工夫されている。また、理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの台詞に下線が引いてあり、児童が問題を科学的に解決できるように工夫されている。「問題をつかもう」では、実際に同じ体験をさせることで、どの児童からも疑問が引き出せるように配慮されている。同一の実験を複数回、又は複数の実験方法で検証する例が示されている。</p>	
資 料	○単元冒頭でダイナミックな写真と学習の概要が示され、児童が見通しをもって問題解決に取り組むことができるように工夫されている。 ○活用問題があり、学習した内容を深く理解できるように工夫されている。 ○吹き出しを使って児童が考える視点やヒントを与えて、問題解決をサポートできるように配慮されている。 ○授業の流れの中でQRコードによる参考情報が活用できるように工夫されている。	
表記・表現	○UD書体を採用し、字形を判別しやすく読み間違えにくいように工夫されている。 ○色覚の特性をふまえ、MUDの観点から識別しやすい配色を用い、色名を表示している。 ○単語の途中で改行せず、文節で改行して読みやすくなるように工夫されている。 ○当該学年の配当漢字には、単元初出に振り仮名を付けている。	
総 括	○巻頭で「理科の楽しみ方」と目次で「季節ごよみ」を示し、問題解決の過程のつながりや季節と関連づけた学習を意識できるように工夫されている。 ○安全に配慮が必要な箇所には、多種類のマークを配置し、注意を促している。	

理科 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	信教	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	3年	178	205	188	193	164	190
	4年	202	229	208	233	192	202
	5年	170	197	196	209	156	194
	6年	202	233	236	225	188	218
2 観察、実験数	3年	30	24	34	31	42	28
	4年	34	38	38	34	58	36
	5年	24	26	27	28	44	26
	6年	33	23	35	34	64	32
3 単元数	3年	11	11	12	11	14	11
	4年	11	10	11	11	16	11
	5年	10	10	9	9	11	9
	6年	11	11	10	9	10	10

○領域別観察・実験数等について

内容	東書	大日本	学図	教出	信教	啓林館	
3年	エネルギー・粒子	15	11	17	15	24	14
	生命・地球	15	13	17	16	18	14
4年	エネルギー・粒子	15	13	16	14	29	15
	生命・地球	19	25	22	20	29	21
5年	エネルギー・粒子	13	10	9	12	14	10
	生命・地球	11	16	18	16	30	16
6年	エネルギー・粒子	16	6	17	16	29	15
	生命・地球	17	17	18	18	35	17

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	信教	啓林館
1 発展的学習のための教材数	3年	3	7	6	4	6	6
	4年	4	15	6	4	11	5
	5年	4	10	11	9	6	6
	6年	4	19	9	8	9	16
2 科学的な読み物などの資料数	3年	14	29	17	17	25	21
	4年	21	28	29	18	26	32
	5年	15	33	25	28	20	27
	6年	19	25	28	37	19	25
3 QRコードの数	3年	120	150	132	41	38	82
	4年	148	142	142	55	69	71
	5年	115	127	126	66	64	106
	6年	122	150	150	75	75	103

生活科調査資料 作成の観点

書名 項目	○○○○ ○○○○○	発行者番号 発行者名
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○生活上必要な習慣や技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○対象を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○対象に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして、対象に直接働きかけることができるように、どのような工夫が見られるか。 ○気付いたことや楽しかったことなどについて、多様な方法（言葉、絵、動作、劇化など）により表現し、考えることができるように、どのような工夫が見られるか。 ○多様な学習活動（見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなど）を行い、気付いたことを基に考えられるよう、どのような工夫が見られるか。 </p>	
資 料	<p>○具体的な活動や体験を促すために、どのような資料が提示されているか。</p> <p>○資料の内容及び取り上げ方は、児童の発達の段階から見て無理がないものとなっているか。</p>	
表記・表現	<p>○児童が親しみ、進んで利用したくなるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○児童の発達の段階を考慮した表記・表現になっているか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新編 新しい 生活</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○具体的な学習活動に即し、生活上必要な安全やマナーに関する習慣や技能の習得を図れるように、随所に「やくそく」、「かつどうべんりてちょう」や、「ちゅうい」などのマークが配置されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「見付ける」「比べる」「たとえる」など、気付いたことを基に分析的に考えるための多様な学習例が、写真や挿絵、吹き出し、表現作品で示されている。 ○思いや願いを実現していく学習の家庭で、児童が思考・判断・表現している姿が、挿絵や吹き出し、表現作品などで示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○思いや願いを実現する活動を繰り返し、自分自身の成長や満足感、成就感などの手応えを感じることで、次の活動や自分の生活に生かそうとしている児童の姿が、写真やイラスト、吹き出し、表現作品などで示されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○単元の扉に、児童の活動場面の写真を掲載し、活動への意欲を引き出すように工夫されている。小単元の初めには、問いかけの形の言葉を示し、対象に直接働きかける活動へと児童を促す構成になるように工夫されている。 ○表現方法として、学習カードを中心に、折り畳み絵本、新聞、ランキングなどの方法が提示されている。学習カードの書き方のページには、注目すべき所や表現のポイントが書いてあり、それを基に表現し、考えることができるように工夫されている。 ○「学びをふかめるコーナー」では、児童が表現・交流活動を行い、気付きを関連付けて、より質の高いものとする姿・過程が例示されている。「主体的・対話的で深い学び」を実現している姿が、登場人物が成長していく挿絵で具体的に示されている。</p>	
資 料	<p>○QR コードでは、動画、クイズ、図鑑などを見ることができる。 ○上巻末の「いきものずかん」では、季節ごとに実物大の動植物のイラストが掲載され、下巻末の「かつどうべんりてちょう」では学習の仕方が紹介されている。</p>	
表記・表現	<p>○巻頭にはスタートガイドが付いており、他教科へつながる学びが教科のマークで記載されている。 ○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、配色及びデザインについて専門家の検証を受けたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○活動のめあてとその活動で育成すべき資質・能力を示したマークを組み合わせることで、指導と評価の一体化が図れるように工夫されている。 ○児童キャラクターの姿や様々な表現方法により、具体的な活動イメージがつかめるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>新版 たのしいせいかつ</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大日本</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「がくしゅうどうぐばこ」では、児童が活動に即して基本的な知識や技能の習得が図れるようになっており、「やくそく」では、安全に関する約束や、マナーに関する技能の習得ができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○活動の流れを把握し、自ら思考できるように、見開きページごとに児童自身に考えさせるための投げかけ（課題）が示されている。 ○言語活動（話形やことば）の紹介があり、どの児童でも豊かに表現できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○活動後の振り返りから、児童の思いや願いを基に次の活動へとつながる流れを意識できるように紙面が工夫されていたり、生活科の活動がその後の自分の生活に生かされていく場面が示されたりしている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○活動場面の写真やイラストを大きく掲載し、児童の興味・関心を刺激し、活動への意欲や期待を引き出すように工夫されている。カードやビンゴなどの書き込み欄を設け、児童が楽しみながら活動を進めることができるように工夫されている。 ○表現方法として、学習カード、絵日記、スライドショー、ペープサート、図鑑やパンフレットなどの方法が提示されている。表現する活動の始めには「くらべる」「たとえる」などの表現の例が表記されており、参考にできるように工夫されている。 ○友達との伝え合い、クラスでの話し合い場面が繰り返し取り上げられ、児童が気付きを共有し考えを深めていく姿が例示されている。児童がかいたイラストや文章、教師の板書など、学び方や表現の仕方が写真や絵で掲載されている。</p>	
資 料	<p>○QR コードでは、動画、図鑑、料理のしかたや友達の作り方などを見ることができる。 ○本文中や巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では、季節の植物のイラストや、学習の仕方や学習を生かした活動、海外の文化について紹介されている。</p>	
表記・表現	<p>○毎時間ごとに学習の振り返りを、気持ちマークを使って表すことができるように工夫されている。 ○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、配色を工夫したり、専門家の検証を受けたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○各活動単位で学習カードや作品など、児童の表現物が例示されており、学習評価の参考となるように工夫されている。 ○「せいかつことば」や「きらきらことば」など、人との関わりがより深まることを促す言葉を紹介するページが設けられており、語彙力を向上するように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">しょうがっこう せいかつ</h1>	<div style="text-align: center;">1 1</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">学 図</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「ものしりノート」は、学習体験や知識が広がるよう構成されている。「学び方図かん」では、活動の基礎となる内容がまとめられており、マークを使って児童に考えさせ、身に付けさせたい技能の習得が図れるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○学習する対象となる人やものについて、学習の過程・種類が、写真やイラストで例示されている。</p> <p>○振り返りを重視した構成にしており、蓄積した記録を基に思考の流れを整理したり表現方法を考えたりすることができるように工夫がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○単元冒頭では、対話的場面を配置し、子供自身の経験を思い出し活用できるよう工夫されていたり、「もっと」では、活動を通して自信をもった児童が、さらに意欲的に取り組めるような活動などが示されたりしている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <p>○各ページ左上に活動の内容を示し、その下の言葉で児童の思いや願いを表すように工夫されている。また、上下巻を通して登場する4人のキャラクターが、活動を通して、友達と関わり合いながら成長していく姿が表現されている。</p> <p>○表現方法として、発見カードや作文、新聞、クイズや劇、紙芝居、ペープサート、ポスターなどの方法が提示されている。巻末には、カードや作文、新聞、手紙を書く時のポイントや例が載っており、活用できるように工夫されている。</p> <p>○児童が友達と伝え合い、対話的に活動し、学びを深める姿が示されている。下巻では、多様な表現でのまとめが例示されており、これまでの学習を基にして「できるようになった自分」を振り返れるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○QR コードでは、動画や動植物の図鑑などを見ることができる。</p> <p>○本文中の「ものしりずかん」では、単元に合った動植物や施設などを、「ものしりノート」では、野菜の育て方やおもちゃの作り方などが紹介されている。</p>	
表記・表現	<p>○自ら進んで学べるように、イラストで活動の内容や活動の流れを表現したり、見開き右下に、次の活動を示唆するイラストが配置されたりしている。</p> <p>○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、目に優しく判別のしやすい色使いにしたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○単元ごとに主となるキャラクターが設定され、対話の中で自分の考えを伝えたり、修正したりしながら、変容していく様子が表現されるように工夫されている。</p> <p>○見開きページをひとつの活動単位とし、願いをもち、主体的・対話的に活動し、伝え合い、振り返る構成となるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>せいかつ</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「やくそく」では、絵や写真、キーワードで安全に関する技能の習得が図れるように工夫されている。「学びのポケット」は、生活科と基本的な生活習慣や他教科との連携が意識できるような内容に工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考を促す吹き出し入りの児童の写真や挿絵が添えてあり、思考する視点が整理しやすくなるように工夫されている。</p> <p>○表現方法の提示に加え、コラムとしてヒントコーナーがあり、多様な学習活動の中で思考する一助となるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○単元導入「わくわくスイッチ」や、単元を貫く「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」、振り返りを助ける「ぐんぐんはしご」が設けられ、学び方を身に付けて、主体的な学びが展開できるように工夫されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <p>○小単元の初めには、児童の期待や疑問を問いかけの形で示し、言葉で活動を喚起できるように工夫されている。上下巻を通して登場する2人の主人公が活動する様子から、期待感をもって取り組めるように工夫されている。</p> <p>○表現方法として、学習カード、ポスター、手紙、絵地図、蛇腹折りの絵本、クイズ、紙しばい、すごろく、ペープサート、歌や踊りなどの方法が提示されている。巻末には記録の方法やポイントが載っており、参考にできるように工夫されている。</p> <p>○観察カードや新聞など、気付きを整理する方法が掲載されている。また、整理したことをグループやクラスで伝え合う活動が例示されている。特設コーナー「何をかんじたかな」では、友達や先生と伝え合う内容や方法が示されている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは、動画、ワークシート、デジタル図鑑などを見ることができる。</p> <p>○上巻に「のはらざかん」がある。本文中の動植物の世話の仕方は、「学びのポケット」とリンクしている。「学びのポケット」では、学習の仕方が紹介されている。</p>	
表記・表現	<p>○「はじめのいっぽ」や単元を結ぶ道で、学びの連続性がわかりやすいように工夫されている。</p> <p>○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、判読しやすい配色やレイアウトにしたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○ページの上に見出しが配置されたり、生活科で学ぶ力がサイコロのマークで示されたりして、活動のねらいが分かりやすいように工夫されている。</p> <p>○各小単元で最も育てたい資質・能力が「サイコロ」で示され、児童と先生が共に学習の「めあて」を把握できるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>せいかつ</h1>	26 信 教
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○生活の中で注意することや大切なことは、マークや絵を使って示されている。地域の特色や実際の行事の写真・絵を掲載し、短い言葉を使いながら生活上必要な習慣や技能が習得できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○活動の様子が、地域性を活かした場所や行事など、児童にとって身近に感じられる写真で示されている。 ○友達同士の学び合いの姿や情報交換する場を例示することで、児童自身の思いや願いから次の活動を考えたり、表現したりできるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○地域に根差した人・もの・ことと、直接関わったり触れ合ったりすることで、ふるさとへの愛着を深められるように構成が工夫されている。また、体験や活動を写真や挿絵で多様に示し、より深い学びや活動につながるように工夫されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○各単元の扉ページいっぱい単元を象徴する写真や挿絵を掲載し、活動への期待感を高めるように工夫されている。動物や植物との継続的な関わりの中で生じる課題を乗り越えることで、命の大切さに気付けるように工夫されている。 ○表現方法として絵や日記、模造紙や手紙などの方法が提示されている。絵の中の児童が思い思いに活動していることで、様々な方法で表現しようとする意欲を高められるように工夫されている。 ○友達と気づきを伝え合う活動が写真や作文の中で表され、児童のより豊かな学びにつながるように配慮されている。また、観察カードや日記が要所に示され、児童が日頃から記録に残して振り返る意義を感じられるように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○QR コードでは、動植物の写真を見ることができる。 ○七夕、お正月など、季節と関わりのある地域の行事が掲載され、上巻の「いつものばしょ」では、同じ場所の四季の様子が観音開きのページで掲載されている。</p>	
表記・表現	<p>○縦書き・右開きで構成されている。また、体験や活動の質が高まるよう、児童の言葉を吹き出しや対話、詩、作文などで表現している。 ○家族や仲間、地域の人々と触れ合うイラストや切り絵、写真で、支え合う大切さが学べるように工夫されている。</p>	
総 括	<p>○地域に生まれ、地域に育つ児童が、四季を通して人やもの、その場所に関わることを重視した内容構成となるように工夫されている。 ○「家庭に始まり家庭に帰る」ことを学びのコンセプトとして位置付け、家庭・地域と共に育てる生活科の実践を目指すように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>せいかつ たんけんたい</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「どうしてだろう なんだろう」のコーナーで、着目させたいポイントやルールについてイラストを使って示されている。「きをつけよう」は、赤字で示され、生活上に必要な習慣や技能が身につくように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○活動について気付いたり考えたりする児童の様子が吹き出し付きの写真や作例などで示されている。</p> <p>○見開きページごとに、活動につまずいた時や試行錯誤する時に大切になる考え方などのヒントがあり、児童が考え、表現していく一助となるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○さまざまな価値観で考える児童の姿が、文章と絵で表現されており、協働的に学べるように配慮されている。振り返りでは、対話や多様な表現活動でまとめることによって、よりよい生活を送ろうとする態度を養うことができるように工夫されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <p>○各単元の扉ページいっぱいに、学習材と児童の写真に掲載し、活動への意欲付けが図られるように工夫されている。活動に関するイラストのコーナーに掲載されているつぶやきが、児童の気付きを促すように工夫されている。</p> <p>○表現方法として、絵やポスター、パンフレット、すごろく、ランキング、巻物、絵本、紙芝居やスライドショーなどの方法が提示されている。巻末には、記録の仕方やポイントが載っており、参考にできるように工夫されている。</p> <p>○児童が、思考と表現を繰り返しながら、学びを深めていく学習例が示されている。また、児童がこれまでの活動を対話的な活動を通して振り返り、新聞やカードなどで気持ちをまとめるという段階が示されている。</p>	
資 料	<p>○QRコードでは、動画やアニメーションなどを見ることができる。</p> <p>○上巻末に切り離して使える「きせつのなかまたち」、小冊子で「ひろがるせいかつじてん」があり、学習の仕方や動植物などが紹介されている。</p>	
表記・表現	<p>○「ふりかえろう」をイラストを用いて全ての小単元に位置づけており、活動経験を振り返る手掛かりとして活用できるよう工夫されている。</p> <p>○UDフォントの使用、カラーUDの観点からの配色の工夫、文字や写真を区別するために罫線を入れるなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○絵本作家のかき下ろしイラストを教科書の随所に掲載し、児童が一緒になって考えられるように工夫されている。</p> <p>○学んだことを次の学習活動に活かすために、学習活動のページの見開きごとに振り返りの場が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>せいかつ</h1>	6 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">啓林館</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「びっくりずかん」では、季節ごとの行事や植物などを知ることができるように工夫されている。「こんなときどうしよう」や「学びのヒント」などのコーナーでは、基本的な生活習慣や生活技能、健康や安全に関する知識が身に付くように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○気付いたことをもとに考えるための学習活動について、児童が思考を働かせている姿が写真や挿絵で示されている。</p> <p>○見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの気付いたことをもとに考えるための多様な学習活動の例が示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「できるかな できたかな？」コーナーでは、学習を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感することで、満足感・成就感などの手応えを感じ、次の活動への安定的で持続的な意欲が育まれるように工夫されている。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○単元の扉ページを写真や問いで構成し、児童の意欲を喚起するように工夫されている。ページの右下にめくり言葉を設定し、活動の中で生まれた気付きや、次の活動への思いや願いを文字にして、意欲を高めるように工夫されている。</p> <p>○表現方法としてカードやクイズ、付箋、絵や紙芝居、巻物などの方法が提示されている。巻末には、記録の方法やポイント、友だちと伝え合うための工夫が解説されており、予想や例えなど書く上でのヒントになるように工夫されている。</p> <p>○グループやクラスで伝え合う、気付きをカードに書くなどの表現活動が、写真やイラストで例示されている。板書や机のレイアウトなど、授業中の教室環境を具体的に示し、児童が学び方を知る手掛かりとなるように配慮されている。</p>	
資 料	<p>○QR コードでは、動画、スライドショー、ウェブリンクなどを見ることができる。</p> <p>○上下巻の「がくしゅうずかん」では、学習の仕方が紹介されている。上巻巻頭に「すたあとぶっく」下巻巻末に「3年生へのステップブック」が設けられている。</p>	
表記・ 表現	<p>○紙面右下に「めくり言葉」が掲載されており、次の活動への期待がもてるように工夫がされている。</p> <p>○UDフォントを使用したり、カラーUDの観点から、紙面の内容が判読しやすい配色やデザインにしたりするなど、全ての児童が分かりやすいように配慮がされている。</p>	
総 括	<p>○単元の流れをわかりやすく示すために、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階構成になるように工夫されている。</p> <p>○教科書紙面にICT端末や電子黒板などのICT機器を活用した学習活動の例を掲載し、教室外の体験と教室内の学びを一体化できるように工夫されている。</p>	

生活科 調査資料 2

○分量について

内容		東書	大日本	学図	教出	信教	光村	啓林館
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	上巻	130	140	140	130	128	137	148
	下巻	122	128	132	130	104	127	138
2 資料のページ数	上巻	16	8	12	13	0	27	10
	下巻	18	12	16	21	0	27	27
3 単元数	上巻	9	4	10	9	17	9	9
	下巻	9	6	6	7	13	9	9
4 QRコードの数	上巻	49	53	36	36	1	28	43
	下巻	34	47	26	34	1	18	21

○内容別ページ数について

内容		東書	大日本	学図	教出	信教	光村	啓林館
1 学校と生活	上巻	25	24	25	21	22	24	30
	下巻	1	6	0	0	6	0	7
2 家庭と生活	上巻	11	6	11	12	4	8	10
	下巻	1	0	10	0	4	0	0
3 地域と生活	上巻	4	8	9	0	0	0	0
	下巻	39	30	36	38	14	28	38
4 公共物や公共施設の利用	上巻	8	8	4	0	2	2	4
	下巻	10	8	16	16	22	8	12
5 季節の変化と生活	上巻	30	34	28	32	61	30	34
	下巻	13	18	8	8	24	8	8
6 自然や物を使った遊び	上巻	32	16	34	32	21	30	34
	下巻	14	14	16	20	12	10	14
7 動植物の飼育・栽培	上巻	22	26	34	26	28	22	26
	下巻	26	20	38	34	30	20	30
8 生活や出来事の伝え合い	上巻	11	18	18	32	11	30	24
	下巻	37	28	35	42	14	38	32
9 自分の成長	上巻	11	8	8	9	7	24	9
	下巻	11	26	15	14	13	16	18

○その他

内容		東書	大日本	学図	教出	信教	光村	啓林館
1 公共施設の種類		10	8	5	9	6	12	11
2 栽培植物（春蒔き）の種類		21	14	16	18	2	18	16
3 栽培植物（秋蒔き）の種類		0	4	9	4	1	11	9
4 飼育動物（虫）の種類		9	5	4	6	2	10	6
5 飼育動物（水生動物）の種類		2	1	2	1	1	2	2
6 飼育動物（小動物）の種類		3	6	3	3	4	4	2

音楽科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。 </p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">音楽のおくりもの</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域・分野ごとに系統的に題材が配列され、学習事項の確認ができるように見開きごとに「学習のめあて」や音楽を形づくっている要素「音楽のもと」が示されている。 ○歌唱では、音域や長さ、歌詞の内容が発達段階に適合するように教材が掲載されており、器楽では、写真等を用いて1音ずつ確実に学び進められるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなびナビ」や「学び合う音楽」で学び方の例や発問例など学習のプロセスが示され、児童に見通しをもたせたり思考させたりすることができるように工夫されている。 ○児童が「音楽のもと」の働きを意識し、音楽をとらえて魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かして表現したりできるような教材の選択や扱いに配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習の見通しをもつことができる「学習マップ」「学習の進め方」や1年間の学習を振り返ることができる『「音楽のもと」まとめ』が設けられ、児童が主体的に学習に臨むことができるように工夫されている。 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 <p><生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「音のスケッチ」などで思いや意図を生かして音楽をつくることができるように、文字やイラスト、活動例が掲載され、児童の考えを引き出すように工夫されている。 ○我が国の伝統的な楽器や民謡、諸外国の音楽などの多様な曲種の鑑賞や表現を通して、生活と音楽との関わりについて考え、多様な文化に触れることができるように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材に合わせた写真（折込を使ったワイド紙面）や学習内容に沿った図やイラストが使用され、視覚的に理解しやすいように工夫されている。 ○QRコード（まなびリンク）が示され、学習に対応した資料がWEB上に用意されており、主体的に学べるように工夫されている。 ○全校で楽しめる合唱曲や、教科横断的な扱いができるような教材「ショートタイムラーニング」などが、全学年に配置されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達の段階に応じて楽譜や文字の大きさが配慮されている。 ○線や図形などを楽譜に見立てて表現できるような資料が掲載されている。 ○音符や休符、記号などは、各教材の別枠に示されているほか、巻末にも掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱共通教材は、歌詞から想像される季節感や情景を重視した扱いができるように「にっぽんのうた みんなのうた」として配置され、写真、資料からも曲の背景を知る手掛かりとなるように工夫されている。 ○紙面編集全体に、特別支援教育の視点に立った配慮や、色覚特性をもった児童へ配慮されている。著作者の創造性を尊重する視点から、名前に振り仮名が加えられている。 	

書名 項目	<h1>小学生の音楽</h1>	27 教 芸
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域・分野ごとに系統的に題材が配列されており、学習事項の確認ができるように見開きごとに「題材のねらい」や、音楽を形づくっている要素が示されている。 ○歌唱では、交互唱から段階を踏んで合唱へと無理なく学習できる構成となっており、器楽では、音あそび等、多様で効果的な学習ができるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」のアイコンが示され、児童が思いや意図をもって表現や鑑賞の学習を進められるように工夫されている。 ○児童の作品例などが示され、児童が表現に対して思いや意図をもったり、音楽や演奏のよさを味わいながら聴いたりすることができるように配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習の見通しをもつことができる「学習マップ」や、1年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童が主体的に学習に臨むことができるように工夫されている。 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 <p><生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「音楽づくり」で思いや意図をもって表現できるように、学習の手順や工夫の視点がアイコンや吹き出しなどで示され、児童の考えを引き出すように工夫されている。 ○体験型の鑑賞学習や調べ学習のための資料が掲載されており、我が国や諸外国の音楽の表現や鑑賞の活動を通して、多様な文化に触れることができるように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動のポイントが色の濃淡やイラスト、写真（撮影場所を明記）により区別・説明されているため、視覚的に理解しやすいように工夫されている。 ○QRコード（ムーブの部屋）を読み取ることによって、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように工夫されている。 ○鑑賞教材で扱われる楽器や演奏法、コラムなどが見開きで示され、学習する際の手立てとなるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達の段階に応じて楽譜や文字の大きさが配慮されている。 ○線や図形などを楽譜に見立てて表現できるような資料が掲載されている。 ○音符や休符、記号などは、「がくふマスター」に示されている外、巻末にも掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○古くから伝わる風習や風景などが歌われる歌唱共通教材は、「こころのうた」として配置され、歌詞や曲が生まれた背景が示され、生活や社会との関わりを捉えやすくなるように工夫されている。 ○紙面編集全体に、特別支援教育の視点に立った配慮や、色覚特性をもった児童へ配慮されている。歌詞の内容や写真には、道徳教育や人権教育に対して配慮されている。 	

音楽科 調査資料2

○分量について

内容	学年	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	82	82
	2年	82	82
	3年	86	86
	4年	88	86
	5年	88	86
	6年	88	86
2 挿絵、写真、イラストの数 ※一定のまとまりをもって一つとカウントする	1年	147	181
	2年	133	180
	3年	137	184
	4年	149	185
	5年	102	157
	6年	97	142
3 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	1年	12	30
	2年	15	34
	3年	21	34
	4年	22	36
	5年	23	35
	6年	15	32

○学習活動別教材数について

内容	学年	教出	教芸
1 歌唱の教材数 (うち楽譜のない教材数) ※ 2と重複しているものもある	1年	40 (14)	30 (13)
	2年	34 (3)	33 (6)
	3年	28	22 (2)
	4年	29	24 (2)
	5年	29	21
	6年	26	21
2 器楽の教材数 (うち楽譜のない教材数) ※ 1と重複しているものもある	1年	8 (1)	13 (2)
	2年	9	12
	3年	19	16
	4年	11	13
	5年	11	8
	6年	12	8
3 音楽づくりの教材数	1年	7	4
	2年	7	4
	3年	7	3
	4年	5	3
	5年	3	2
	6年	3	2
4 その他の表現の教材数	1年	7	4
	2年	3	3
	3年	4	1
	4年	1	1
	5年	1	0
	6年	1	0
5 鑑賞の教材数	1年	13	12
	2年	16	15
	3年	18	20
	4年	42	20
	5年	61	21
	6年	15	17

内容	学年	教出	教芸
6 表現と鑑賞の活動の関連を図った教材数 ※ 1～5と重複してカウントする	1年	8	5
	2年	11	10
	3年	4	4
	4年	7	7
	5年	5	4
	6年	5	6
7 歌唱、器楽、音楽づくりの活動の関連を図った教材数 ※ 1～6と重複してカウントする	1年	8	4
	2年	7	1
	3年	5	5
	4年	4	4
	5年	1	6
	6年	2	3

○その他

内容	学年	教出	教芸
1 我が国の音楽（表現・鑑賞）の教材（題材）数 ※ 民謡等紹介は題材数①としてカウントする ※ 外国曲の編曲は除く ※ 前項の教材数と重複してカウントする	1年	13	11
	2年	12	13
	3年	10	9
	4年	13	11
	5年	19	14
	6年	10	13
2 音符、休符、記号、音楽にかかわる用語の解説の数 ※音楽にかかわる用語は絵や写真による楽器の紹介を含む ※ページ単位でカウントする ※教育出版の右端縦で表示されている新出の記号等や教育芸術社の「がくふマスター」を含む ※特集ページは含めない	1年	9	8
	2年	7	9
	3年	11	16
	4年	15	19
	5年	17	15
	6年	6	10

図画工作科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○対象や事象を捉える造形的な視点について、自分の感覚や行為を通して気付くことができるようにどのような工夫がされているか。 ○手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方を工夫して、創造的につくったり表したりできるようにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○創造的に発想や構想できるようにどのような工夫がされているか。 ○自分の見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うために、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫> ○〔共通事項〕の十分な指導が行われるように、どのような工夫が見られるか。 ○言語活動の充実を図る上で、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <用具の安全な取扱いについて指導するための工夫> ○材料や用具の安全な取扱いについて、どのような工夫がされているか。 </p>	
資 料	○発想を高めるために、どのような工夫が見られるか。 ○基礎的・基本的な内容や表現の過程に関する資料について、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトルの示し方や図版等の説明について、どのような工夫が見られるか。 ○説明の文章や児童作品等の作者の言葉について、どのような工夫が見られるか。	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>図画工作</h1>	9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して表現技法や材料、用具を選んで取り組みたくなるように題材が工夫されている。 ○題材で使用する用具の安全な使い方や表現技法の説明が、題材ページや巻末に示されている。また、思いに合わせた表現技法を選んでいることが児童のコメントなどで分かるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○創造的に発想や構想することができるように、児童の製作過程の情景写真では、吹き出しを使って児童の思いを掲載する工夫がされている。 ○自分の見方や感じ方を深められるように、作者のコメントを掲載したり、立体作品を色々な方向から鑑賞したりできる工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な材料や場、表現方法が題材に取り入れられている。楽しく豊かな生活を創造する態度を養うために、身近な人々や社会と関わる場面が例示され、SDGsに関するコラムを設け、社会生活とのつながりを感じさせる工夫がされている。 <p><表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○〔共通事項〕の十分な指導が行われるように、QRコードでの動画を使って、児童のイメージを広げたり、製作意欲を喚起したりする工夫がされている。 ○参考作品に、形や色などの特徴や、作り方のイメージを捉えやすくするための説明が示されている。 ○表現と鑑賞の一体化を図りながら言語活動を促せるよう、自分の思いを言葉にするための発問や、他者と活動する児童の様子を、写真と吹き出しで示す工夫がされている。 <p><用具の安全な取り扱いについて指導するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「用具や材料を知ろう」や題材の中で、写真やイラストを使い、用具の使い方が説明されている。また、QRコードを読み込むことで動画でも使い方が理解できるように工夫されているとともに、安全性についても囲みを設けて示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを通して、用具の安全な使い方や作り方などの動画や教科書に掲載した作品以外の参考作品を見たり、発想や構想、振り返りなどに使えるワークシートをダウンロードし、利用できたりするようにより工夫されている。 ○冒頭に作家作品や学びの意義がメッセージとして掲載されている。また、SDGsマークや題材に関わるSDGsの取組や作品が紹介され、環境へ配慮されている。 ○ICT端末の活用については、「タブレット端末を使おう」で紹介されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○題材で育てたい資質・能力に沿った「学習のめあて」を明示するとともに、中心となるめあてについては強調して示されている。また、めあてに沿ったキャラクターが学習のポイントを投げかけ、学習が深められるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを通して題材との関わり方を説明することで、造形的な活動が広がるように工夫されている。 ○他教科とのつながりを具体的に示されている。また、作家や職人、海外の伝統文化とのつながりが写真やふきだしを使って紹介され、キャリア教育の視点も踏まえ、自分たちの学びを社会全体へ広げていくように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>図画工作</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料や素材の扱い方が示されており、自分の感覚を通して題材に取り組みたくなるように工夫されている。 ○題材ページや巻末で用具の使い方や表現技法の説明が示されている。また、題材ページで制作の手順や組み合わせ方、児童のつぶやきを示すことで、思いに合わせて用具や技法を選べるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○創造的に発想や構想することができるように、児童の思いや製作過程が分かる情景写真を掲載する工夫がされている。 ○自分の見方や感じ方を深められるように、多様な角度から色や形の特徴を捉えられる資料や、題材ページの掲載が工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料や場、活動方法が幅広く題材に取り入れられている。児童の感性を育むために見方や感じ方について考えさせる工夫が取り入れられ、伝統的なものの美しさや、社会生活とアートとのつながりを感じさせるように工夫されている。 <p><表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○〔共通事項〕の十分な指導が行われるように、製作過程が写真で示されており、児童のイメージを広げたり、製作意欲を喚起したりする工夫がされている。 ○参考作品の形や色などの特徴や、作り方、イメージをとらえやすくするために、鑑賞のヒントが示されている。 ○表現と鑑賞の一体化を図りながら言語活動を促すために、各題材のタイトルの下に児童の対話を引き出す発問や、他者と活動する児童の様子を、写真と吹き出しで示す工夫がされている。 <p><用具の安全な取り扱いについて指導するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「材料や用具のひきだし」や題材の中で、写真やイラストを使い、用具の使い方が説明されている。また、QRコードを読み込むことで動画でも使い方が理解できるように工夫されているとともに、安全性についても囲みを設けて示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードから用具の使い方や仕組みのつくり方などを動画で確認することができるように工夫されている。 ○情景写真や作品コメント、ふきだしの言葉など、実際の授業で行われたものが掲載され、活動や作品に関して児童がイメージしやすいように工夫されている。 ○ICT端末の活用については、活動例を示しながら紹介されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のめあて」は3観点を5項目に細分化し、育てたい力が明確に示されている。また、めあての5項目はそのまま評価規準の観点につながり、指導と評価の一体化が図れるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な作品を掲載したり、児童の発言や作者のコメントを掲載したりすることで、造形的な活動が広がるように工夫されている。 ○児童の活動の様子や、学習の流れを写真を通して分かりやすく示されているとともに、地域や伝統文化とのつながりを感じさせる場面が紹介され、楽しく豊かな生活を創造する心を育てられるように工夫されている。 	

図画工作科 調査資料2

○分量について

内容	学年	開隆堂	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1・2年上	64	68
	1・2年下	64	64
	3・4年上	64	64
	3・4年下	64	64
	5・6年上	64	70
	5・6年下	68	68
2 材料や場所などを基に造形遊びをする活動のページ数	1・2年上	8	10
	1・2年下	8	7
	3・4年上	6	6
	3・4年下	6	6
	5・6年上	4	4
	5・6年下	4	6
3 絵や立体、工作を題材にした内容のページ数	1・2年上	36	28
	1・2年下	36	32
	3・4年上	36	30
	3・4年下	36	28
	5・6年上	34	34
	5・6年下	32	32
4 鑑賞を題材にした内容のページ数	1・2年上	6	10
	1・2年下	6	9
	3・4年上	8	11
	3・4年下	8	16
	5・6年上	12	17
	5・6年下	12	13
5 材料や用具の扱いに関する内容のページ数	1・2年上	6	8
	1・2年下	6	8
	3・4年上	6	8
	3・4年下	6	8
	5・6年上	6	8
	5・6年下	6	8
6 QRコードの数	1・2年上	31	37
	1・2年下	31	37
	3・4年上	30	38
	3・4年下	30	37
	5・6年上	30	39
	5・6年下	28	35

○作者別作品数について

内容	学年	開隆堂	日文
1 児童の作品数（製作過程の作品は除く）	1・2年上	76	71
	1・2年下	81	70
	3・4年上	78	64
	3・4年下	86	73
	5・6年上	81	83
	5・6年下	84	99
2 日本人の作家の作品数	1・2年上	2	0
	1・2年下	3	4
	3・4年上	4	5
	3・4年下	6	12
	5・6年上	6	17
	5・6年下	12	10
3 外国人の作家の作品数	1・2年上	0	0
	1・2年下	0	2
	3・4年上	3	1
	3・4年下	4	5
	5・6年上	7	14
	5・6年下	6	6
4 その他の作品数（文化財、民芸品等）	1・2年上	1	0
	1・2年下	4	0
	3・4年上	5	1
	3・4年下	1	7
	5・6年上	4	8
	5・6年下	17	18

家庭科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容について、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現する等、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○家庭生活に関する内容について、実践的・体験的な活動を通して、実感を伴って理解する学習を展開するために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料と本文の関係及び資料のレイアウトには、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○中心的な学習活動である実習を安全かつ効果的に進めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>新しい家庭</h1>	2 東 書
内容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材のはじめに、キャラクターによる吹き出しや、写真を示して、何を学ぶのかを意識しながら学習を進められることで、知識・技能の定着につながるように工夫されている。 ○小題材ごとに学習の「めあて」と呼称した「ふり返ろう」を設け、こまめに学習を振り返り、学習内容が定着するように工夫されている。 ○各実習に「できたかな？」の欄を設け、実習のポイントが自己評価としても活用できるように配慮されている。 ○学習・実習内容を基礎・基本から応用へと児童の発達段階に応じて系統的に配列し、より確実な技能の定着を図るように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材のはじめに、「家庭科の窓」として生活を見つめる4つの視点を示すことで、生活の中から課題を発見しやすくなり、解決に向けて学び合うことができるように工夫されている。 ○題材を3つのステップで展開し、問題解決的に進められるようになっており、繰り返すことで定着を図り、実生活でも役立てることができるように工夫されている。 ○各ステップで活動の手順を示し、様々な学習活動を通して児童の思考力、判断力、表現力が育成されるように配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入では、大きな写真やイラスト、キャラクターによる問いかけが掲載され、生活の中から課題を見つけられるように工夫されている。 ○「成長の記録」でポートフォリオとして、2年間の学びの記録を積み重ねることで、成長を実感し、生活の中でさらなる課題を設定できるように工夫されている。 ○第5学年の初期段階にSDGsに関するページが掲載され、学習とSDGsを関連付けて学習を進められるように工夫されている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活を変えるチャンス」では、学習のまとめとなるような事例が示され、それを基に学習を振り返ることで、実践的・体験的な学習の充実が図られるように工夫されている。 ○学習活動が段階的に設定されており、最後のステップ3で学習を深めることで、自分の家庭生活に結び付け、実践・体験できるように配慮されている。 	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードにアクセスすることで、画像を見ながら学習できるページが設けられている。題材の各ステップに合わせた資料や動画、思考ツールを使った考えの整理を助けるトライシート等が示されている。 ○「いつも確かめよう」として、衛生・安全に関するものを巻頭に提示されている。また、基礎技能に関するものを実習ごとのページや巻末に提示し、実習の場面で活用しやすいように工夫されている。 ○SDGsについての特集ページや特設サイトを設け、SDGsとの関連を意識しながら学習を進められるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○安全についての注意・喚起を促す「安全マーク」や食育・伝統文化を示す「日本の伝統マーク」、環境への配慮を示す「環境マーク」等、様々な学びとの関連を示すマークが使われている。 ○言葉の注釈には「言葉」と示して解説しており、他の題材や教科・学年の学習内容と関連する点には、「関連」や「リンク」を付して、学習の見通しをもつ場面が設けられるように工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、罫線で区切りをしたり、字体の工夫をしたりして、さまざまな発達特性に配慮されている。 ○学習を導くキャラクターが学習のポイントを示唆するなど、児童の学習意欲を喚起し、主体的な学習を促すように表現が工夫されている。 	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○題材が「見つめよう」、「計画しよう・実践しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップで構成され、問題解決的な学習ができるように配慮されている。 ○豊富なコンテンツを活用し、思考を可視化したり、他者と共有したりしながら、学んだことを生活に活かせるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>わたしたちの家庭科</h1>	9 開隆堂
内容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「なぜ～だろう」など、題材のはじめに児童への問いかけや、フォトランゲージを掲載し、題材の見直しをもたせ、知識・技能の定着につながるように工夫されている。 ○題材のはじめに自分なりの課題の記述欄と、終わりには「生活に生かそう」を設け、学習内容が定着するように工夫されている。 ○各実習に「できたかな」の欄を設け、技能についての学習成果を確かめることができるように配慮されている。 ○日常生活に必要な基礎的な知識・技能を着実に身に付けるために、スモールステップで易しいもの順に実習を積み重ねられるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各題材のはじめに、生活に係る見方・考え方の中で特に関わりのある視点を示すことで、より深い学びにつながるように工夫されている。 ○題材毎に、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで構成し、自分自身の生活の中から課題を見つけ、見直しをもって課題解決型学習が進められるように工夫されている。 ○「考えよう」「調べよう」「話し合おう」などの学びを深める小課題を設け、児童の思考力、判断力、表現力が育成されるように配慮されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○導入では、児童の関心を引く大きな写真やイラストを掲載し、問いかけの一文が付け加えられ、課題を見つけられるように工夫されている。 ○「生活の課題と実せん」や「2年間の学習を中学校につなげよう」など、小学校の学びを将来に向けて広げることができるように工夫されている。 ○安全・防災に関する特設ページ、各題材のマークや「なぜそうなの？」コーナーにより、生活の中でも安全への注意を意識できるように工夫されている。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○「生活の課題と実せん」のページにおいて、それまでの学習をフィードバックすることで実践的・体験的な学習の充実が図られるように工夫されている。 ○3つのステップで学習を進め、最後の「生かす 深める」で学習したことを家庭でも実践・体験できるように配慮されている。 </p>	
資料	<p> ○QRコードにアクセスすることで、画像を見ながら学習できるページを設けている。実習・製作に関わる映像や資料・ワークシートなど、学習に役立つ資料が用意されている。 ○巻末に、材料・用具に関わる知識の他、各種実験などの科学的な資料や防災への備えについても掲載されている。また、左利き児童へも実習・製作時に対応できるように「利き手はどちら？」の資料が掲載されている。 ○キャリアインタビューコーナーや、中学校で行われている家庭科の授業の様子を写真等で紹介するページがあり、現在の学習が児童の将来への見通しに繋がるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○安全についての注意・喚起を促す「安全マーク」や環境への配慮を示す「環境マーク」等、取り組む視点を明確にするマークが使われている。 ○言葉の注釈には「言葉」と示して解説してあり、他の題材や教科・学年の学習内容と関連する点には「関連マーク」や参照ページを示し、学習の見直しをもつ場面が設けられるように工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、実習の流れを色分けしたり、字体や改行の工夫をしたりして、さまざまな発達特性に配慮されている。 ○年代や国籍など多様な人々をキャラクターとして文中に登場させて、多様性について配慮されている。 </p>	
総括	<p> ○題材毎に、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで構成し、見直しをもって課題解決型学習が進められるように配慮されている。 ○スモールステップで取り組んだり、多様なコンテンツを用意して目で見て確かめたりしながら、基礎的・基本的な内容の定着が図られるように工夫されている。 </p>	

家庭科 調査資料 2

○分量について

内容	東書	開隆堂
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	150	154
2 挿絵、写真、資料等の総ページ数 (資料として活用するページ)	31	35
3 題材数	15	20
4 QRコードの数	68	67

○項目別ページ数について

< A 家族・家庭生活 >

内容	東書	開隆堂
(1) 自分の成長と家族・家庭生活	13	9
(2) 家庭生活と仕事	12	10
(3) 家族や地域の人々とのかかわり	9	10
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	6	9

< B 衣食住の生活 >

内容	東書	開隆堂
(1) 食事の役割	5	3
(2) 調理の基礎	28	23
(3) 栄養を考えた食事	10	9
(4) 衣服の着用と手入れ	16	15
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	27	26
(6) 快適な住まい方	19	19

< C 消費生活・環境 >

内容	東書	開隆堂
(1) 物や金銭の使い方と買物	10	8
(2) 環境に配慮した生活	11	8

○その他

内容	東書	開隆堂
1 製作品・調理実習の例示数	83	78
2 観察・実験、見学、調査、研究の例示数	83	76
3 安全・衛生に配慮する項目を取り上げている箇所数	27	37

体育科（保健）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> <input type="checkbox"/>身近な生活における健康・安全について理解し、保健に関わる基本的な技能を身に付けるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> <input type="checkbox"/>健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現するために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> <input type="checkbox"/>健康の保持増進を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫> <input type="checkbox"/>健康・安全についての基礎的・基本的な内容を実践的に理解するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> <input type="checkbox"/>運動と健康との関連について具体的な考えをもてるよう、どのような工夫が見られるか。 <input type="checkbox"/>中学校へつながる系統性のある指導ができるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<input type="checkbox"/> 児童の学習意欲を喚起する資料であるか。 <input type="checkbox"/> 教科書の記述内容を理解する上で有効な資料であるか。 <input type="checkbox"/> 資料の新しさ、図表等の正確さはどうか。	
表記・表現	<input type="checkbox"/> 児童が理解しやすい表現の工夫がされているか。 <input type="checkbox"/> 脚注、注釈等によって理解を助ける配慮はどうか。 <input type="checkbox"/> 全ての児童にとって学習しやすいようレイアウト等の適切な配慮がされているか。 <input type="checkbox"/> 記号、用語等の正確さはどうか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい保健</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が太字で記述される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、4ステップ「気づく・見つける」→「調べる・解決する」→「深める・伝える」→「まとめる・生かす」で構成されており、ステップ4では学習の要点を整理する等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調べる・解決する」では、課題の解決に向けて、情報を集めたり、調べたり、話し合ったりする活動を通して、考えを深められるように工夫されている。 ○「深める・伝える」では、学習したことを基に、他の事例や自分の生活と関連付けて考える記述欄があり、それらを踏まえて他者と伝え合えるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各項の2ページ目の冒頭で「学習の課題」が明示されている。課題を明確にすることで、「学習の課題」をより自分のこととして捉え、学びに向かえるように工夫されている。 ○章末のQRコンテンツ「学習をふり返ろう」では、学習を終えて、もっと知りたい、調べたいと思ったことを書く欄が設けられ、さらなる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を広げたり、深めたりする「資料」や「まめちしき」、「解説」のコーナー、個別最適な学びに適したデジタルコンテンツがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○生活と関連付ける「深める・伝える」や自分の生活やこれからの学習にいかす「まとめる・生かす」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックアスリートの紹介やスポーツの意義を示す資料を掲載する等運動と健康について考える工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」の中に資料として掲載し、小中学校の学習内容を系統的に指導できる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に身近な生活や自分の経験を振り返って考える活動が大きな写真とともに掲示され、児童の意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、挿絵、QRコード、漫画、キャラクターの吹き出し等の資料を通して、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○各項末では、「熱中症」や「ASUKAモデル」、「防災」等多くの今日的な健康課題や、オリンピック・パラリンピックアスリートの言葉が取り上げられる等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、学習をまとめる記入欄等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間の学習内容が、導入1ページ、学習内容見開き2ページ、まとめ1ページの合計4ページでまとめられている。 ○写真、イラスト、グラフ等の資料を大きく配置したり、学習の思考を助けるガイドキャラの言葉を多く取り入れたりする等、学習内容を理解しやすくするように工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、文章では読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、配色では紙面の色数を限定して落ち着いたレイアウトにしたりしている。 ○共生社会の形成に向けた視点から、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したり、思春期にあらわれる変化について配慮した表現をしたりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○事例について原因を探究・分析したり、資料を基に思考したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○学習課題を明確にし、振り返りを充実させることで、学びへの意欲を喚起するように工夫されている。 ○写真、イラスト、デジタルコンテンツが充実しており、視覚的に健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 ○オリンピック・パラリンピックアスリートの言葉や運動に関する資料、中学校への接続を考えた発展内容等を掲載しており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">たのしい保健</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">大日本</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文に分かりやすい言葉で明示されており、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」で構成されており、また各単元末に学習内容を振り返りながら確認できる問題を設定する等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう・調べよう・話し合おう」では、課題解決学習を通して、思考し、文章や発話で他者に伝え、多様な考えを聞き、学習を深めていくことができるように工夫されている。 ○「活かそう」では、学習したことを生活にいかすことができるような問いかけがあり、自分の考えを表現できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵では、学習の見通しをもたせるとともに、児童が保健を学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に学習に取り組む態度が養われるように工夫されている。 ○導入の活動「つかもう」では、児童に身近な題材を取り上げ、自分の生活について振り返ったり、考えたりする活動を通して、意欲的に取り組めるように工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の助けとなる資料「もっと知りたい」や「ミニちしき」のコーナー、保健の見方・考え方を働かせるための読み物があり、理解を深めるための工夫がされている。 ○学習内容を確認できる「〇年のまとめ」、毎日の生活でいかす「活かそう」や「家・地域でほけん」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭でアスリート等の「夢と健康」についての紹介を行ったり、運動の例を示した資料を掲載したりして、運動と健康について考える工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」として掲載し、中学何年生で学習するかを示すことで中学校への接続が図られている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に「学習ゲーム」が提示され、QRコードを読み取ることで、動画等で詳しい内容を知ることができ、児童の意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○「インターネットと犯罪被害」や「薬物乱用」等多くの今日的な課題が取り上げられ、「たのしい保健ウェブ」では、SDGsとの関わりについて掲載する等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、各単元末の学習のまとめ、「たのしい保健ウェブ」で毎時間の学習内容を振りかえる等評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元導入に簡単な「学習ゲーム」が見開き2ページで掲載され、1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○写真、イラスト、グラフ等の資料を掲載したり、専門家キャラクターの解説やミニ知識、学びを広げる内容を取り入れたりする等、学習内容を理解しやすくするように工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色にしたりしている。 ○持続可能な社会の実現に向けた視点から、共生社会の形成についての身近な例を掲載したり、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学習したことを基に、自身の考えを記述したり、他者と対話したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○自己の生活から課題を見だし、学習課題を明確にすることで、主体的に学習に取り組む態度が養われるように工夫されている。 ○実験や実習を行う教材が数多く用意され、実践的、体験的に健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 ○アスリート等の「夢と健康」についての話や、運動に関する資料、中学校との接続が示された発展内容が掲載されており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新 小学校保健</h1>	50 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大修館</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が太字で記述される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」のシンプルな3ステップで構成されており、毎時間の最後にはウェブクイズを用意する等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○身近な生活の中から健康課題に目を向けさせる発問を設定し、保健の見方・考え方を働かせて思考できるように工夫されている。 ○各章の最後の「学習をふり返ってみよう」では、これからの生活にいかしたいこととその理由を記述する欄を設け、自分の考えを深められるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○毎時間の学習の最後に設けた「まとめ 生かそう・伝えよう」では、児童自身が、自分の生活を見直す等して、自己の課題について主体的に考えられるように工夫されている。 ○章の最後に「学習をふり返ってみよう」のページが設けられており、学んだことを現在や将来の生活にいかすことができるように工夫されている。</p> <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○学習を広め深める資料「はってん」やデジタルコンテンツ、保健と体育を関連させたコラム「体育の窓」のコーナーがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○思考を広げる「まとめ」や学習したことを現代や将来の生活にいかす「学習をふり返ってみよう」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。</p> <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○巻頭にイラストやニュース、新聞記事等を掲載し、健康な生活と運動について考えられるような工夫がされている。 ○中学校の内容を「はってん」の中に資料として掲載し、小中学校の学習内容を系統的に指導できるように工夫されている。</p>	
資 料	<p>○各単元の導入に、これから学習する概要を、写真やキャラクターの吹き出しとともに掲載し、児童の学習意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○資料や「はってん」では、今日的な健康課題等を取り上げ、QRコードでは、動画やクイズを通して、さらに詳しく学習できるようにする等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを記入する欄や、学習のまとめを記入する欄、QRコードを読み取って保健クイズをする等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○各項では学習の進め方を示した3つのステップが示され、概ねの1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○写真、イラスト、グラフ等の資料を数多く掲載したり、学習の思考を助けるキャラクターの言葉を多く取り入れたりする等、学習内容を理解しやすくする工夫がされている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色にしたりしている。 ○多様性の尊重の視点から、性、年齢、国籍、障害の有無等にもとづく差別や偏見につながったりすることのないように配慮した記述がされている。</p>	
総 括	<p>○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学習したことを基に、自身の考えを記述したり、振り返りを記述する活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○自己の生活から課題について考えることで、主体的に学習に向かうことができるように工夫されている。 ○写真、イラスト、デジタルコンテンツが充実しており、視覚的に健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 ○アスリートの話や運動に関する資料、体育と保健を一体として捉えた内容が掲載されており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるように工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>新わたしたちの保健</h1>	<p>207 文教社</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が青の色付き枠や太字で示される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」で構成されており、また児童の意識の流れがスムーズにいくよう学習課題に順序性をもたせる等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「もう一步先の自分へ」では、学習したことのまとめや自身の健康課題への解決方法や今後の生活でいかしたいことを思考し、記述できるように工夫されている。 ○「わたしの〇〇宣言」では、学習したことを基に、何ができるのか、自分にはどんな方法が適しているのかを理由を付けて記述し、話し合いながら考えを深められるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「本時のメニュー」で見通しをもたせ、「ミッション」（学習内容）と「ステージ」（学習活動）で1時間の授業が構成されており、児童が意欲的に取り組めるように工夫されている。 ○単元末の「エピソード」や「もっと考えよう課」では、学習に関連する情報や、より深く考える内容が紹介されており、児童がさらなる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。</p> <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○学習したことをもとに、もっと深く考える「もっと考えよう課」や「発展」のコーナー、情報のリンク先「もっと知っとこう課」があり、理解を深めるための工夫がされている。 ○これからの自分の課題を考える各項のまとめ「もう一步先の自分へ」や、各単元のまとめ「わたしの〇〇宣言」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。</p> <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫> ○各単元末の「わたしのけんこう宣言」、「わたしのすくすく宣言」等で、運動と健康を関連付けた目標が記述できる工夫がされている。 ○中学校の内容を「発展」の中に資料として掲載したり、巻末にアスリートからのメッセージを掲載したりして、系統的に指導できる工夫がされている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○各単元の導入に、課題を見つけてこれからの学習の見通しをもつための動機付けページが掲載され、児童の学習意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター、「Episode」等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○「発展」を中心に「感染症の対応」、「防災」、「熱中症」等多くの今日的な課題を取り上げたり、QRコードを読み取って関連機関から情報を得られたりする等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを記入する欄や、各項末の「もう一步先の自分へ」では、学んだことをどのように実生活に生かしていくかを記入する欄が設定されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○各単元の導入では「動機付け」が2ページで掲載され、1単位時間の学習内容が、写真・イラストを中心に2ページか4ページでまとめられている。 ○イラストを中心としたレイアウト、学習の思考を助けるキャラクターや説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすくする工夫がされている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、書体や文字の大きさ、色に配慮し、レイアウトを含め、読みやすくわかりやすいものになるように工夫されている。 ○現代的な諸課題への対応の視点から、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したり、思春期にあらわれる変化について配慮した表現をしたりしている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○課題を明確にし、課題解決的な学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学習したことを基に、記述したり発表したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○学びを助けるためのキャラクターの説明等、児童が興味・関心をもって学びに向かえるような情報が掲載されている。 ○これまでの学習を振り返り、実生活に生かす等健康安全について理解を深める工夫がされている。 ○身近な人のエピソードや、中学校接続を踏まえた発展的な学習資料が掲載されており、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成できるように工夫されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>小学保健</h1>	<p>208</p> <p>光文</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が文頭の★マークや太字で示される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう「生活を振り返る」→「課題をつかむ」→「課題解決のための活動」→「まとめ」→「活用」の5段階で構成されており、また各章末に「学習のまとめ」を設ける等、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを書いたり、話し合ったりする活動、学んだことを実践する活動を通して、考えを広げたり、深めたり、新たな気づきを得て、解決策を見いだせるように工夫されている。 ○「学んだことを生かそう」では、自分の生活を振り返って見直す活動を行い、実生活において学んだことがいかせるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に学習内容のイメージがつかめる漫画を掲載したり、単元冒頭にて自分の生活を振り返った上で課題を確認したりすることで、学習意欲を高められるように工夫されている。 ○各単元末の「学んだことを生かそう」で、学習内容を自分の生活にいかす視点を用意することで、児童が自分ごととして学習内容を活用できるように工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な課題を考える資料「さらに広げよう 深めよう」、児童の理解を助ける「科学のとびら」や「この人に聞く」のコーナーがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○各章末の「学習のまとめ」や学習をいかし、これからの自分の生活を考える「学んだことを生かそう」のコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭でトップアスリート等の言葉を掲載したり、運動についての資料やコラムを掲載したりすることにより、運動と健康について考えられるように工夫されている。 ○「はってん」では、中学校の学習内容を資料等で示すことで、小中学校の学習内容を系統的に指導できる工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、児童が学習内容を身近に感じられるようなストーリー形式のイラストと会話が掲載され、児童の学習意欲を喚起させるように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、学習の思考を助けるキャラクター等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○「インターネットと犯罪被害」や「新しい感染症」等多くの今日的な課題が取り上げられたり、QRコードを読み取ることで、さらに詳しく学習したりできる等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを表現する記入欄や、話し合いの記入欄、学んだことの記入欄、「学習のまとめ」の自己評価欄等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入ではストーリー形式でまとめられた「とびらのページ」が掲載され、1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられている。 ○イラストを中心としたレイアウト、図やグラフ等の見やすい配色、学習の思考を助けるキャラクターと説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすくする工夫がされている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色にしたりしている。 ○現代的な諸課題への対応の視点から、学習内容と関係するSDGsの目標を記載したり、思春期にあらわれる変化について配慮した表現をしたりしている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的、対話的な学びを通して、基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう紙面の構成が工夫されている。 ○学んだことを書いたり、他人に伝えたりする活動によって、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○ストーリー形式のイラスト、動画やウェブサイト等、学びを広げ、深めるための資料によって、児童が興味をもって学びに向かえるように工夫されている。 ○学習内容について、科学的な内容の記載や専門家による解説の記載により、健康・安全について理解を深める工夫がされている。 ○アスリートやクリエイターの言葉や、運動についての資料、中学校に接続することを示した学習資料を掲載することにより、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成できるように工夫されている。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新・みんなの保健</h1>	<p>2 2 4</p> <p>学 研</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示された学習内容が本文にまとめられており、大切な部分が太字で記述される等、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ○各項の内容が主体的・対話的で深い学びとなるよう、「課題をつかむ」→「自ら取り組む活動」→「対話的な活動」→「活用」が見開き2つ(4ページ)で構成(課題解決の過程を3つのピースで完成する流れ)されており、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分で考える」「友達やみんなと考える」「身に付けたことを生かす」構成によって自分の考えを形成したり、深められたりできるように工夫されている。 ○各章の最後に「学習をふり返る」や「学習したことを伝える」「明日につなぐ」ページが設けられ、学習を基に「誰かに伝える・話してみたい」ことを記述できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習が、3つのピースを完成させる流れで構成されており、健康についての学びを、児童が主体的に進めていくことができるように工夫されている。 ○現代的な健康課題や、学習内容をより深めるような資料が掲載されていたり、デジタル教材が活用できるようになっていたりする等、主体的に学習ができるように工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○より学びを広げる「ほけんのはこ」や「はってん」のコーナー、個別最適な学びに適したデジタルコンテンツがあり、理解を深めるための工夫がされている。 ○各章末に「振り返り」や身近な生活にある課題等に対して、学んだことを活用して解決するコーナーがあり、実践的に理解を深めるための工夫がされている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に健康と夢の関わりや、保健の学習の大切さや世界とのつながりを感じられる資料を掲載することにより、健康について考える工夫がされている。 ○中学校の内容を「発展」として掲載し、中学何年生で学習するかを示すことで中学校への接続が図られている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入に、これから学習する概要が写真やキャラクターの吹き出しとともに掲載され、児童の学習意欲を喚起するように工夫されている。 ○グラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるように工夫されている。 ○「ほけんのはこ」や「もっと知りたい・調べたい」で、今日的な健康課題等を取り上げ、QRコードを読み取ってさらに詳しい内容を学習できるようにする等の工夫がされている。 ○思考・判断したことを記入する欄や、QRコードを読み取って振り返りを記入する欄、単元末に学習の振り返りを記入する欄等、評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各項では学習の進め方を示した3つのピースが示され、1単位時間の学習内容が見開き2つ(4ページ)にまとめられている。 ○イラストや写真を中心としたレイアウト、配色の見やすさ、学習の思考を助けるキャラクターによる説明が多く取り入れられ、学習内容を理解しやすくする工夫がされている。 ○ユニバーサルデザインの視点から、読みやすさに優れたユニバーサルデザインフォントを使用したり、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色にしたりしている。 ○現代的な諸課題に対応する視点から、個人差や多様性に配慮した記述をしたり、ICT機器等を使うときの健康・安全について記載したりしている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の初めに自らの生活を振り返り、自分の考えをもって学習活動を進めることで、基礎的・基本的な学習内容を理解できるように紙面の構成が工夫されている。 ○資料を読み取ったり、事例について探求・分析したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ○保健の学習の進め方が明記され、見通しをもち、主体的に学習に向かうことができるように工夫されている。 ○学習内容と現代的な健康課題を関連付ける等、健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 ○キャリア教育や食育とのつながりについて考える資料、中学校に接続することを示した学習資料を掲載することにより、児童が生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるように工夫されている。 	

体育科（保健） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	大日本	大修館	文教社	光文	学研
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	124	116	124	122	108	140
2 資料、付録等の総ページ数	32	25	31	16	7	6
3 表・グラフの数	37	24	26	21	29	20


○内容別教材数について

内容	東書	大日本	大修館	文教社	光文	学研
健康な生活	4	4	4	4	4	4
体の発育・発達	3	4	4	4	4	4
心の健康	3	3	4	4	3	3
けがの防止	4	5	4	4	5	4
病気の予防	7	8	8	8	8	8

○その他

内容	東書	大日本	大修館	文教社	光文	学研
1 個に応じた学習のための教材数 ※ 「考えよう」「書いてみよう」 「まとめよう」「話し合ってみよう」等	90	45	57	35	52	121
2 実験・実習等を行うための教材数 ※ 「調べてみよう」「やってみよう」等	7	8	7	7	4	5
3 発展的内容の教材数	19	20	27	21	22	25
4 QRコードの数	94	40	62	32	41	40

外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名		発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解することができるように、どのような工夫がされているか。 ○読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付くように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うために、どのような工夫が見られるか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○单元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるようどのような工夫をしているか。 ○文及び文構造について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。 ○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。 ○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。 </p>	
資 料	○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。 ○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	NEW HORIZON Elementary English Course	2 東書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○単元で使われる基本的な語彙等の歌やチャンツを使った活動と「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を知る活動が毎時間ある。「Let's Watch」「Let's Listen」で視覚や音声から基礎知識を習得できるように工夫されている。 ○「Let's Try」で慣れ親しんだ表現を活用して、友達とやり取りを行い、「Small Talk」には Small Talk の参考となるトピックが掲載され、さらに、「Enjoy Communication」で学習内容を振り返りながらコミュニケーションを図る工夫がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○導入「Starting Out」では、単元の学習内容に慣れ親しみ、展開「Your Turn」では、学習した語彙や表現を使ったペアやグループでのやり取りを通し、学習内容の定着が図られるように工夫されている。まとめ、「Enjoy Communication」では、単元で学習した表現力を確認し、それらをもとに会話の内容を広げる。また、年間3回、思考ツールを使って、内容を整理し発表する「Check Your Steps」がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Enjoy Communication」では、単元の目標となる活動を行う「Your Goal」を視野に入れ、学習した内容を使って自分の考えや思いをペアで伝え合いながら、話題を広げられるような工夫がされている。また、各単元の最後には、世界の文化を知ることによって児童の視点を世界に広げて、英語を学ぶ意欲を高めるために、パートを用意するなどの工夫がされている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○5つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるように、各活動にマークで示されている。 ○各単元の目標達成に向けて、スパイラルに活動が配置され、5領域がスモールステップで、バランスよく扱われている。各単元の主な表現は「Let's Chant」や「Small Talk」等で繰り返し扱われ、文構造等の気付きにつながるよう工夫されている。 ○英語を使用する日常の場面が設定されており、日本や世界・SDGs など、段階的に児童の視野を広げ、児童が主体的に取り組むことができる目的・場面・状況を伴った言語活動が工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には5年生「日本でつながるわたしたち」、6年生「世界とつながるわたしたち」がある。各学年にアルファベットと6年生には名前や単語、文の書き方の記載がある。「コンピューターを学習にいかそう!」ではQRコードからのコンテンツ利用が紹介されている。 ○巻末には「Try it」や絵・コミュニケーションカード、6年生に「Going to Junior High School」がある。別冊「My Picture Dictionary」に「Can Doの樹」、ローマ字表がある。 ○デジタルコンテンツでは、ストーリー、チャンツ・歌、モデル映像、デジタルワークシート、資料映像などが掲載され、QRコードから見られるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○英語・日本語ともに、ユニバーサルデザイン書体と、なぞり書き用書体が使用されている。4線の第2線は点線で、第2線と第3線の間は広い。アルファベットを書く初期段階では、モデル字を左利きの児童にも見えるよう配慮されている。 ○全体的に文字は小さめで、行間はやや狭い。用途に応じて、文字の大きさが使い分けられている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元が4段階で構成され、単元毎に Our Goal が示されている。単元末の「Over the Horizon」では異文化理解の内容が示され、「Sounds and Letters」では、「名前」「音」「文」の順に学習するスモールステップの構成でできている。年間3回、学びを振り返り、伝える力を確かめる「Check Your Steps」があり、内容の定着を図ることができる。別冊の「My Picture Dictionary」がある。 ○学習者用デジタル教科書では、教科書の登場人物と模擬会話ができたり、動画字幕の ON/OFF 機能を活用できるなど、児童が自分のペースで学習を進められる工夫がある。 </p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">Junior Sunshine</p>	<p style="text-align: center;">9</p> <p style="text-align: center;">開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Let's Watch and Think」で新出語句や表現に出会い、「Song Box・Chant Box」で音に親しみ、「Let's Play」で練習、「Let's Listen」で聞く活動をして「Let's Listen and Read」「Let's Read」で、音声を読む活動へつなぐように工夫されている。 ○「Let's Try」で学習した語句や表現を使って、ペアやグループでのやり取りを行うよう設定されている。さらに、「Activity」では、単元ゴールの言語活動として、これまでに身に付けた力を用いて、発表できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の「Follow Up」において、言語活動の目的・場面・状況を捉え、「Let's Try」や「Activity」のペア・グループ活動を通じて、新しい語彙や表現を繰り返し学習し、定着が図られるように工夫されている。「Activity3」では、これまでに身に付けた力を用いて単元のゴールの言語活動に取り組む。対話を通して、習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力の育成へとつなげられるように構成されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Let's Try」「Activity」では、相手意識、目的意識をもって言語活動を行うことができるように場面設定が工夫されている。巻末のCAN-DOチェックでは、児童が見通しをもって学習に取り組み、自らの学習状況を振り返ることができるように工夫されている。各単元末には「Around the World」という異文化理解のパートがあり、また、身近な地域や自国の魅力を改めて考えることができるようにも工夫されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるように、各活動にマークで示されている。 ○各単元の目標達成に向けて、スパイラルに活動が配置され、5領域がスモールステップで、バランスよく扱われている。各単元の主な表現は「Chant Box」等で繰り返し扱われ、文構造等の気付きにつながるように工夫されている。 ○自分や身近な人たちのことから、地域や日本、興味のある外国のこと、思い出や将来のことへと話題を広げ、互いの考えや気持ちを伝え合う活動を全単元、ほぼ同じ構成にすることで、安心して考えや気持ちを伝え合う言語活動になる工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には5年生に「Let's study English」、6年生に「Let's think and communicate」があり、英語学習の目的が示され、学習内容が写真と共に紹介されている。「Classroom English 授業で使える20の表現」と既習事項を確認する「Let's Review!」がある。 ○巻末には「Sounds and Letters」、表現のまとめ、アルファベット・ローマ字表、Map、学びを振り返る為のCAN-DOチェック、双六、巻末カードがある。別冊「Word Book」がある。 ○デジタルコンテンツでは、英語に親しむことができるアニメーションや多文化・異文化を知ることができる動画、単元のゴールの言語活動が実写映像で収録されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語は、独自に開発された手書き書体が使用されている。日本語にはユニバーサルデザイン書体が使用されている。4線は、第2線と第3線の間は広く、第3線は青線で、それ以外は薄い灰色の実線になっている。 ○英文と日本語文の大きさはあまり差がない。書く活動の手本が4線上に太字で書かれており、書き写しやすいよう工夫されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元は4段階からなり、初めにGOALが明記され、活動の見通しをもたせる構成になっている。年3回「Let's Check」があり学習した英語が身に付いたか確かめることができる。世界への視野を広げる「Around the World」がある。2時間毎に「Small Talk」と毎時間毎に「Sounds and Letters」が示され、積み重ねができる構成になっている。音声から文字への学びのつながりが重視されている。別冊「Word Book」がある。 ○学習者用デジタル教科書では、授業の流れや復習に役立つ資料集等を掲載している。また、児童の様子に合わせて、独自のフラッシュカードを作成する機能がある。 	

<p>書名 項目</p>	<h1>CROWN Jr.</h1>	<p>15 三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「Panorama」で語句や表現に出会い、「Let's Watch/Listen/Speak」と、インプットからアウトプットへつながっている。「Sound/Word/Phrase Chant」で文字と音の関係、語句、表現を学び、「ABC Fun Box」で文字や音に親しむ工夫がされている。 ○「Small Talk」のトピックで既習表現を使ったやり取りをし、「Let's Play/Talk/Read & Write」と、学習したことを使ってやり取りをし、それを書く学習へ進め、「Let's Try」でゴールの言語活動へとつなげられるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元は「HOP」「STEP」「JUMP」の3つに分かれ、「HOP」で単元全体の学習を見通して、自らのゴールを設定し、「STEP」で言語活動に取り組みながら、語句や表現を身に付け、「JUMP」で学習した語句や表現を使って言語活動を行う構成になっている。「JUMP」ではコミュニケーションの目的や場面、状況が明確に設定された言語活動で思考力・判断力を働かせながら表現し、内容の定着が図られるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○児童が自ら立てた目標に向かって、グループ活動などを通して対話的・協働的に学び合える構成になっている。「HOP」では学びの見通しを立て、次の「STEP」で場面を通して語句や表現を身に付け、最後に「JUMP」で学習した語句や表現から自分で話す内容を選び、思考力・判断力を働かせながら表現できるよう工夫されている。また、「Hello, World」では異文化に対する理解が深められる題材や資料が配置されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○5つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるように、各活動にマークで示されている。 ○各単元の活動では、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を中心としたものがスパイラルに学ぶことができるように工夫されている。各単元的主要表現は「Phrase Chant」等で繰り返し扱われ、文構造等の気付きにつながるように工夫されている。 ○各単元を一枚絵のパノラマで導入し、語句や表現が使われる場面や状況が示され、関心・意欲を高められるように工夫されている。また、単元の最後には学習した内容を統合的に使う言語活動を設定するように工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、5年生に「世界のあいさつ」、6年生に「世界のまちかど」があり、写真が掲載されている。また、「英語で言ってみよう」では、外国語活動で学んだ語彙や表現に触れ、身の周りのものや気分、国名など、基本的な語彙が絵とともに紹介されている。 ○巻末には「Story Time」「英語でこんなことができた！」やローマ字表、巻末カードがある。別冊「My Dictionary」には基本的な語彙や表現、CAN-DOリスト等が掲載されている。 ○QRコードから教科書ウェブサイトへアクセスでき、各活動のモデル動画や音声を必要に応じていつでも確認でき、ゲーム感覚で単語学習も行うことができる。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語には専用手書きフォントが、日本語にはユニバーサルデザイン書体が使用されている。4線は、第2線と第3線の間はやや広く、第3線は青線で、それ以外は薄い灰色の実線になっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成である。 ○英文と日本語文の大きさはあまり差がない。書く活動の手本が4線上に太字で書かれており、書き写しやすいよう工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○3つの大きなUnitからなり、各単元は「HOP」「STEP」「JUMP」で構成されている。単元初めの「Panorama」では一枚絵を用いて語彙や表現に出会い「Let's Listen」「Let's Talk」などの言語活動を通して語句や表現を身に付け、目的や場面、状況を考えて表現する。「Hello, World!」があり世界への興味・関心を高められ、巻末の「英語でこんなことができた！」では学習の振り返りができる構成となっている。別冊「My Dictionary」がある。 ○学習者用デジタル教科書では、語句・表現の学習用ゲーム、ポートフォリオ機能がある。また、ペン機能や機械読み上げ音声も搭載されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">ONE WORLD Smiles</p>	<p style="text-align: center;">17</p> <p style="text-align: center;">教 出</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Let's Watch」で、映像を見て内容を捉え、「Let's Say It Together/Sing」で口慣らしをし、「Let's Listen」で聞き取り活動をする流れになっている。「Sounds and Letters」では単元で学んだ発音や表記を復習できる構成になっている。 ○ペアやグループで取り組む「Activity」、学習した語彙等を使い、単元の目標に関連した発表ややり取りをする「Final Activity」が設定されている。「Let's Read/Write」が新設され、1文ずつ読んだり書いたりするコーナーが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の流れは、映像を見て概要を捉え、聞いて慣れ親しむ活動から、自分の考えや思いを伝える活動へつながるようになっており、インプットからアウトプットへと段階的に学習が進むように構成されている。単元内の「Let's Think」では、気付きや思考を促す問いが設定されている。また、「Final Activity」では、これまで学習した語句や表現を使い、自分のことについて表現する活動が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Activity」や「Final Activity」では、ペアやグループで協力し合いながらコミュニケーション活動をする機会が設定されている。その中で励ましや相づちの表現が紹介されており、他者へ配慮した活動が行われるように工夫されている。「World of Smiles」では、海外に暮らす同年代の子供たちの声や学校生活などを紹介し、世界を身近に感じ、違いだけでなく共通点も感じられる紙面になっている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるように、各活動にマークで示されている。 ○文構造や基本的な表現の定着を図るコミュニケーション活動を、段階を踏んで配列されている。「Let's Say It Together」等ではさらに繰り返して定着させるよう工夫されている。英語と日本語の語順の違いについて扱っている部分もある。 ○聞くことから始まり、書いて整理した上で、やり取り・発表をする単元で構成され、学校や家庭など児童の身近な暮らしに関わる場面を中心としたコミュニケーションを通して言語の意味や働きを体験的に理解できるような工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、学びのロードマップ「Welcome to One World Smiles」があり写真と共に1年間の学習の見通しが示されている。また「Classroom English」「Let's Start Together」では、絵資料と共に、学んだ英語の語彙や表現に触れられるように工夫されている。 ○巻末には、「My Word Bank」、歌やジングル、ローマ字表、アルファベット表、絵カード（5年生はシールが付属）、ワークシートがある。6年生には「My Book」が付属している。 ○QRコードからアクセスできる「まなびリンク」には「やり取り・発表の動画」「リズムに合わせた口慣らし・歌の音声」などのコンテンツがあり授業や家庭で学べる。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語、日本語ともにユニバーサルデザインフォントが使用されている。4線の上下幅の比率は4:5:4で、第3線は青線、それ以外は薄い灰色の実線になっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成である。 ○日本語と英語の文字の大きさに差はない。全体的に文字は小さめで、行間はやや狭い。用途に応じて、文字の大きさが使い分けられている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元が「Let's Watch/Sing/ Listen/ Say It Together, Activity」でシンプルに構成されている。冒頭に1年間の目標を示し、児童の目標が設定できるよう工夫されている。年間2回ある「Let's Read and Act」では他教科との関連のある内容が示され、「World of Smiles」「Let's Look at the World」では異文化に触れられる。6年生の最終単元では、総復習として自分のことを書き、「My Book」にまとめる活動が設定されている。 ○学習者用デジタル教科書では、英単語を選択するとネイティブの発音が再生されたり、動画には字幕や速度調整機能が搭載されており、個別最適な学びができるよう工夫されている。 	

<p>書名 項目</p>	<h1>Here We Go!</h1>	<p>38 光村</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○「Let's Watch/Listen」の順で段階的に学習できる工夫がされている。単元の初めのパノラマには「Story」と「Let's Listen and Point」があり、耳で聞いたり、指さしたりする活動がある。各ページに歌や発音、Small Talk が設定されている。 ○「Let's Try」には、学習した語句や表現を使って友達とやり取りを行う活動が、「Let's Write and Read」では書いたことを声に出す活動が設定されている。「Let's Speak (Write and Speak)」で自分のことを発表する活動へつなげている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元は、3段階で構成されている。「Hop!」で単元のゴールを示し、見通しをもたせ、「Step1・2」では、聞く活動から始まり、話す活動を経て、読む・書く活動へとスモールステップで進んでいき、最後の「Jump!」につながる。「Jump!」では、慣れ親しんだ語彙や表現を読む活動や、映像を視聴し、考え方や表現の方法を広げる活動を行い、最後には自分の考えや思いを伝え合う活動が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻末の「Response」では、相づちや共感などの表現が示されており、相手意識をもったコミュニケーションが身につく工夫がされている。各単元の「Jump!」に、単元で扱う題材に関連して世界の12か国の小学生が映像で登場し、各国の文化に対する理解を深められるようにしている。「世界の友達」では各国の小学生の考えや暮らし方に触れることで、文化の違いや共通点を見いだすことができる工夫がされている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各活動が5つの領域別のマークで明示されている。目次に単元の重点領域のマークがあり、巻頭のCAN-DOリストでは、各領域別の振り返りができるようになっている。 ○各単元の目標達成に向けて、スパイラルに活動が配置され、5領域がスモールステップで、バランスよく扱われている。「Small Talk/Plus One」等では各単元での主な表現が繰り返し扱われ、文構造等の気付きにつながるよう工夫されている。 ○既習表現の活用場面を随所に設定し、児童が自分の思いを伝える際に既習表現を生かせるような工夫がされている。複数の単元の学習の後、まとめの言語活動を設定し、その学期までに学んだ表現を受容・発信する場面を用意している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、5年生「こんにちは。友達になろうよ。」、6年生「英語で世界とつながろう」があり、写真が掲載されている。各学年でできるようになることでは到達目標 (CAN-DO) が「Let's Start」では会話のポイントや既習表現及びアルファベットが示されている。 ○巻末には、「Alphabet Time」、「英語の物語」や単語や文の書き方、ローマ字表がある。学びの足跡を残せる「All About Me」、及び別冊の「Picture Dictionary」がある。 ○QRコードコンテンツからは、場面設定やキャラクターの動きや表情を大切にしたアニメーションや実写の活動動画、リスニング音声などを視聴できる。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語はオリジナル書体が、日本語はユニバーサルデザイン書体が使用されている。4線の第2線と第3線の間は広く、第3線は青線、それ以外は薄い灰色の実線になっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成である。 ○日本語と英語の文字の大きさに差はない。用途に応じて、文字の大きさが使い分けられている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○単元は「Hop!」「Step1・2」「Jump!」の3部構成である。単元末には、「Alphabet Time」で書く活動が設定されている。年間3回の「世界の友達」では、主に「聞く」「読む」活動を、「You can do it!」では、「話す (やりとり)」「話す (発表)」「書く」活動を行い、各領域の到達度を確認できるようになっている。巻末には、英語で自己表現をする「All About Me」や語彙や表現、心が通う受け答えをまとめた「Picture Dictionary」がある。 ○学習者用デジタル教科書では、必要な単語を登録できるほかに、活動後に児童が自己評価を書き込んで教師に送ることができるよう工夫されている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">Blue Sky elementary</p>	<p style="text-align: center;">6 1</p> <p style="text-align: center;">啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の最初に「Introduction」と「Watch the Scene」があり、絵を見て場面や言葉の意味を推測する工夫がある。基本表現を知る「Word and Phrases」、音やリズムに親しむ「Jingle/Chant」、語彙や表現を聞き取る「Listen and Do」の活動がある。 ○「Activity」では、学んだ基本的な表現を使ってやり取りをしたり、単元の最後に自分の思いを発表したりする活動が設定されている。またそれぞれに「Tips」があり、コミュニケーションを円滑に進めるためのヒントが示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「とびら」では、学びの見通しをもたせる。「Step 1・2」では、新しい語彙や表現に慣れ親しみ、簡単なやり取りや発表の活動をする。「Step 3」では、「聞く」「話す」活動を通し、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、コミュニケーションを楽しむ活動となっている。また、年 3 回の「REVIEW」では、提示された場面においてどのような英語で伝えればよいのか考え、表現する活動が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末についている付録シートには、会話の中で使える様々な相づちや質問の表現が示されており、相手意識をもったコミュニケーションが身につく工夫がされている。「Did you know?」では、異文化や日本とのつながりなど、単元に関連するトリビア的知識を紹介し、児童の興味関心を引き出す工夫がされている。また、異文化情報から、外国の文化や生活を理解する心を育てる工夫もされている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、各活動にマークで示されている。巻末の Can-Do List で、各領域別の振り返りができるようになっている。 ○インプット→ミニアウトプットを繰り返し、表現に慣れ親しむことができるように配慮されている。紙面に表現を明示したり、「Jingle」や「Chant」等を入れたりすることで、繰り返しながら、文構造等の気付きにつながるよう工夫されている。 ○言語材料の使用場面や、児童が目指すゴールのイメージをアニメーションで提示されており、どんなことを話しているのか、児童が想像しながら場面や言語材料に触れることができるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭にはアルファベットの一覧と「コミュニケーションに大切なこと」「Pre Unit」があり前学年までに学んだ内容を復習できるような内容となっている。6年生では教科書で扱う世界の国を紹介する地図が掲載されている。 ○巻末には「Story」、Word List、Can-Do List、絵カード「会話を楽しむフレーズ集」がある。5年生「英語でゲームをしよう」6年生「へボン式ローマ字表」の掲載がある。 ○QRコードでは、ゴールの言語活動のモデル動画や、音声・映像・単語クイズ・話すための「英文Maker」など、さまざまなコンテンツを利用することができる。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語、日本語ともにユニバーサルデザインフォントが使用されている。4線の上下幅の比率は5：6：5で、第3線は青線、それ以外は、薄い灰色の実線になっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成である。 ○文字はやや小さめで、行間や書き込み部分にゆとりがある。用途に応じて、文字の大きさが使い分けられている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元が「とびら」、「Step 1～Step 3」で構成され、「Step 1・2」で語句や表現を身に付け、「Step 3」ではコミュニケーションを楽しむ構成になっている。読む・書くを学習する「Let's Read and Write」、世界へ視野を広げる「Did you know?」のコーナーがある。年 3 回ある「REVIEW」には、目的・場面・状況に応じて、相手意識をもって話す活動「Try」と情報を読み取る活動「Challenge」がある。巻末には「Word List」が掲載されている。 ○学習者用デジタル教科書では、白黒反転やルビふりなど特別支援教育の視点で配慮され、音声や動画の速度変更機能により各自のペースで学習を進められるよう工夫されている。 	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	5年	96	133	112	116	110	132
	6年	96	133	112	108	110	132
2 新出総単語数	5年	527	738	506	472	506	720
	6年	182	19	162	196	206	57
	合計	709	757	668	668	712	777

○領域別教材数等（言語活動）について

※2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit等)	5年	8	8	7	9	8	8	
	6年	8	8	7	8	8	8	
2 総教材数	5年	186	211	204	129	153	155	
	6年	284	203	195	122	160	172	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	5年	100	91	71	57	75	85
		6年	150	84	68	40	72	85
	② 主に読むこと	5年	1	31	34	16	27	21
		6年	37	35	30	24	31	22
	③ 主に話すこと [やり取り]	5年	36	47	43	25	17	18
		6年	19	49	39	14	12	17
	④ 主に話すこと [発表]	5年	7	9	26	9	11	16
		6年	11	7	28	13	16	17
	⑤ 主に書くこと	5年	42	33	30	22	23	15
		6年	67	28	30	31	29	31

○題材について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や 風俗習慣に関する題材数	5年	11	10	7	12	11	11
	6年	11	9	9	9	11	8
2 日本の伝統文化に関する題材数	5年	2	4	0	2	0	0
	6年	1	1	2	1	1	1
3 外国の文化に関する題材数	5年	2	5	2	2	1	4
	6年	2	2	3	2	0	1
4 日本や外国の物語に関する題材数	5年	0	0	3	1	1	1
	6年	0	0	3	2	1	3
5 世界や日本の地理、歴史、自然に 関する題材数	5年	1	2	3	1	1	1
	6年	2	3	0	3	2	1

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
アルファベットに関する活動数	52	17	14	18	21	14
動画を活用した言語活動数	90	51	98	35	77	68
巻末付録内容	19	6	16	19	7	23
巻末ワードリスト単語数	709	757	668	668	712	777
最長読み物教材総単語数	45	59	48	98	45	141
QRコードの数	122	106	101	112	93	250

道徳科調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるか。 ○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度）を育成するために、どのような工夫が見られるか。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題についてどのように取り上げ、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするために、どのような工夫が見られるか。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階に即し、ねらいを達成する上で、どのような工夫が見られるか。 ○深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるために、どのような工夫が見られるか。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実するために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習に関して、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を喚起するために、読み物教材にはどのような工夫が見られるか。 ○効果的に活用するために、挿絵や写真、図などにはどのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容を把握しやすくさせるために、仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるか。 ○主な記述（読み物教材など）と道徳科の内容項目との関係の示し方にはどのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<h1>新編 新しい道徳</h1>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「どんな学び方をするのかな？」では、1時間の学習を通して自己を見つめる際の考え方が例示されており、各教材末尾に投げかけの問いなどを掲載し、問題意識を喚起して、自分との関わりで主体的に学べるよう工夫されている。 ○教材文の中の多様な考えを阻害しかねない記述を削除し、価値を押し付けないよう工夫されている。「ちょっと話し合ってみよう！」では対話による学び方が示され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ○心に残った教材や、これからの生活に活かしたいことを書くことができる「学習の記録」が巻末に設けられており、定期的に学習を振り返ることができるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的・社会的課題であるテーマについて、他教科との連携や家庭との連携、自分のできることを考えるコラムと教材を組み合わせ、課題解決のための意欲を高められるよう工夫されている。 ○いじめの問題について、いじめ場面を直接的に扱う教材と、関係する道徳的価値から間接的に考える教材の2教材とコラムを組み合わせ、様々な側面から考えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生におけるスタートカリキュラムへの対応、身近な教材文、多様な資料から自己の生き方について考えるものへと教材や形式が工夫されている。 ○「いじめ」「いのち（生命の尊厳）」「じぶん（自己肯定感）」を全学年同時期に配当し、生命の尊さや自分のよさや可能性について見つめられるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを可視化する思考ツールを示し、4年生以降は「心情円」が付録として切り取って使えるよう工夫されている。 ○3年生以上に「問題を見つけて考えよう」や「演じて考えよう」の欄を設け、多様な指導方法でねらいにせまれるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や挿絵などのビジュアルから考える教材があり、学習意欲が高まるよう工夫されている。大きい挿絵や見開きの写真を掲載した教材がある。 ○教材理解が深まるように、場面絵に合わせて朗読音声が出るスライドショーなどのQRコンテンツが用意されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は教材の初出のカタカナにルビが振られている。漢字については、1年生は数字のみ、2年生からは前学年までに習った漢字を使用し、固有名詞など当該学年以上の配当漢字は教材ごとにルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。索引は4つの視点を色分けして示されており、内容項目ごとに分類して示されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭はシンプルに構成され、実態に応じ柔軟に使用できるよう工夫されている。 ○体験的な学習や思考ツールの紹介、問題解決的な学習指導過程を提案するページを設け、深い学びにつながるよう工夫されている。 ○詩、大きい挿絵や見開きの写真、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">小学道徳 はばたこう明日へ</h1>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には見通しをもち学習に取り組めるよう学びのガイダンスを設け、各教材冒頭には主題を掲載し道徳的価値の方向性を明確にするとともに投げかけの言葉を示し、問題意識を高め自分との関わりで考えられるよう工夫されている。 ○「学習のてびき」には様々な問いが設けられ、多様な視点から物事を見つめ、考えられるよう工夫されている。学習内容の補足や教材に関するコラムが掲載され、教材内容を多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ○教材の最後に自己評価を記入できる「まなびチェック」や巻末に心に残った教材とその理由を6教材分記入できる欄があり、定期的に学習を振り返り成長を実感できるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題であるSDGs等に関連する教材や資料を組み合わせ、テーマとして学びを広げ、現代社会が抱える問題について一人一人が課題を発見し、考えを深められるよう工夫されている。 ○「いじめ問題」「情報モラル」について全学年で重点テーマとして、教材とコラムを組み合わせ、児童の発達の段階や生活環境に即して、様々な視点で問題に対して考えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年で重点テーマを設定し、児童の成長が見取れるよう、同じ内容項目の教材を、時期を変えて複数回学習できるよう工夫されている。 ○低学年は物語教材、中学年は生活教材、高学年は人物の生き方から学ぶ教材を多く取り上げ、発達の段階に合わせて自分の生き方を考えられるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○二種類の考えを深め、議論するための発問と中心的発問を明確に示し、ねらいとする道徳的価値について深く考えられるよう工夫されている。 ○教材に応じて、「問題を解決しよう」「やってみよう」欄が設けられ、問題解決型や体験型の学習ができるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○現在活躍している人物や先人、スポーツ選手などのテーマが取り上げられている。イラスト形式、漫画形式の教材があり、学習意欲が高まるよう工夫されている。 ○教材の解説や関連図書の紹介、参考になるWebサイトなどが見られる二次元コードが掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、1年生は数字のみ、2年生からは当該学年の配当漢字までを使用し、固有名詞などの当該学年以上の漢字の全てにルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。索引は4つの視点を色分けして示し、内容項目ごとに分類して示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のてびき」を掲載し、考え、議論する授業が展開できるよう工夫されている。 ○個別学習、共働学習、家庭学習に使用できるデジタル教材「まなびリンク」を設け、興味・関心を高め、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○絵本や詩、一枚絵から考える教材、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

書名 項目	道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光 村</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には「何を学ぶ教科なのか」「一年間の学びの流れ」が掲載され、教材冒頭には呼びかけの言葉を示し、自分との関わりで主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○学習のてびき「考えよう・話し合おう」には考えたり話し合ったりするための発問が提示され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。対話の力を育む構成と「考えるヒント」の手立てにより、考えを引き出し深められるよう工夫されている。 ○巻末に、全時間分の学びの記録と「考える」「聞く」「今後の生活」に関する3種類のシールを選択・蓄積することにより、1年後には道徳性の成長の記録を自己評価できるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童がSDGsを自分のこととして考えられるよう、発達の段階に即した話題を教材として取り上げ、自分の生き方と関わらせながら考えが深められるよう工夫されている。 ○現代的な課題と向き合う4つのテーマについて、「よびかけ」「教材」「コラム」という一連の流れを全学年で統一し、テーマについて問題意識をもって取り組み、探究できるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に掲載の「道徳が始まるよ」や6年間を通して「いじめ問題」「情報モラル」について考えられる構成により、学びを見通し意欲を高めるよう工夫されている。 ○全学年「生命の尊さ」に重点を置き、全学年3つの教材が配置され、詩や日常生活の中から、児童が生命の尊さを実感できるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○付録「学びの道具箱」に授業で活用できるツールが掲載され、自分の考えを整理したり、友達と話し合ったりできるよう工夫されている。 ○問いを3つのステップで構造化し、主体的に話し合い、考えが段階的に深まっていくよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○実話、先人の伝記、スポーツ選手などのテーマが取り上げられ、学習意欲を喚起するよう工夫されている。読み物とは異なる形式の教材がある。 ○教材で取り上げた人物のインタビュー動画や声優による音声朗読などがQRコードコンテンツとして用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は教材の初出のカタカナにルビが振られている。漢字については、1年生は数字のみ、2年生からは当該学年の配当漢字までを使用し、2年生以上で当該学年の配当漢字全てにルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。目次と索引は4つの視点を色分けして示し、索引は内容項目ごとに分類して示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のつながりに配慮し、児童が考えを広げ、深められるよう工夫されている。 ○教材末には「考えよう・話し合おう」を設け、学んだことを自分との関わりで考え、問題解決的な学習につながる発問になるよう工夫されている。 ○絵本や詩、一枚絵から考える教材、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">小学道徳 生きる力</p> <p style="text-align: center;">小学道徳 生きる力 道徳ノート</p>	<p style="text-align: center;">1 1 6</p> <p style="text-align: center;">日 文</p>
<p>内 容</p>	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「道徳のとびら」「道徳の学び方」にどのようなことを学ぶ教科なのかを示し、教材冒頭にはリード文とともに自分との関わりで考えさせる問い掛けを掲載し、主体的に道徳的価値について理解を深められるよう工夫されている。 ○別冊「道徳ノート」に自分と異なる意見を記述する欄が設けられ、多様な考えを尊重できるよう工夫されている。発問例を載せないことで、様々な視点から改めて自分を見つめ、自分の言葉やイメージを表現できるよう工夫されている。 ○コラム「心のベンチ」では自己肯定感を高める活動や方法を紹介し、別冊の道徳ノートに自分や友達の意見をメモしたり、実生活に繋げて考えたりすることができるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末に示したSDGsの17の目標とのつながりを考える教材から、多様な人々と協働し、諸課題を解決しようとする意欲やこれからのよりよい社会について考えられるよう工夫がされている。 ○いじめや情報モラル等のテーマを各学年に系統的に配列し、身の回りの事象から教材へと学びをつなげ、問題意識をもち、見方、考え方を広げられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達の段階を考慮した内容で、「保・幼、小、中」の校種間連携に配慮し、1年間及び6年間を通して、系統性を意識した構成となるよう工夫されている。 ○6年間を通して、コラム「心のベンチ」を設け、今の自分を見つめ、これからの自分へつなげられるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭に状況を端的に示した文言を掲載し、教材理解を促すとともに、ねらいに沿って話し合えるよう工夫されている。 ○「ぐっと深める」では、体験的な活動を通して、道徳的諸価値に対する理解を促すよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文学作品、スポーツ選手、芸術家などの幅広いテーマを取り上げている。児童に身近な生活場面を扱った教材があり、学習意欲を喚起するよう工夫されている。 ○QRコンテンツが用意され、実在する教材の主人公が登場する動画などから教材理解を深められるよう工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の漢字やキーワード、固有名詞などがある場合には、ルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。目次や索引は4つの視点を色分けして示されており、索引は内容項目ごとに分類して示されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとにリード文や3つの発問が掲載されており、学びの流れを分かりやすく示すことで児童が主体的に学べるように工夫されている。 ○別冊の「道徳ノート」は紙とデジタルの使い分けができ、実態に応じた授業展開で使うことができるよう工夫されている。 ○詩、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

<p>書名 項目</p>	<h1>小学道徳 ゆたかな心</h1>	<p>208 光文</p>
<p>内 容</p>	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「問いを見つけ、考え、まとめ・ふりかえり、ひろげ・つなげる」という学習の流れが紹介されており、教材冒頭には問い掛けを掲載し、主題にかかわる問題意識を喚起し、主体的に考えられるよう工夫されている。 ○共感や気付き、考えるポイントや考えを広めるための見方が設定され、多面的・多角的な思考を促すよう工夫されている。考えをまとめたり広めたりするための思考ツールが提示され、様々な角度から考えられるよう工夫されている。 ○巻末にある全時間分の振り返りを記述する「学びの足あと」では、児童が自分の学びを見つめ成長を実感し、新たな課題や目標を見つけることができるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGs や情報モラルに関わる課題については、全学年に教材とコラムを設け、発達の段階を考慮した内容や目標を取り上げ、自分事として考えられるよう工夫されている。 ○特に考えさせたい内容について教材を連続した配列とし、発達段階に即してテーマを変えながら取り上げ、児童が課題について様々な視点から考えられるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○重点主題は、複数時間で構成され、心の成長が実感できるように低学年・中学年・高学年に応じて段階的に教材を配置するよう工夫されている。 ○「学年独自主題」では、発達の段階に応じて、「人間」を主としたテーマを設定し、よりよく生きることについて考え続けられるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な角度から考えられるよう発達段階に応じた思考ツールを掲載し、考えを視覚化したり、学習内容をまとめたりできるよう工夫されている。 ○全学年通しての共通コラムが設定されて、体験的な活動を通して、より良い人間関係が築けるような工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実話、先人の伝記、スポーツなどのテーマを取り上げ、学習意欲を喚起するよう工夫されている。アニメや漫画教材、見開きの絵や写真を掲載した教材がある。 ○教材冒頭にある二次元コードから、教材理解を支援する写真や動画、参考Webサイトが見られるようになっている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、1年生は数字のみ、2年生からは前学年までに習った漢字を使用し、3年生までは全ての漢字に、4年生からは当該学年以上の漢字にルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。索引については4つの視点を色分けして示されており、内容項目ごとに分類して示されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○問いを見つける構成や考えたい教材で学びを広げられるよう工夫されている。 ○全学年にレジリエンスコラムを設け、困難を乗り越える「心の力」を理解し、自分らしくたくましく生きるための力を育めるよう工夫されている。 ○絵本、見開きの絵や写真、アニメや漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新版 みんなの道徳</h1>	224 学 研
内 容	<p>＜道徳科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に一年間の学びの全体像や自分の考えを深めるポイントを掲載し、教材冒頭では主題名ではなくキーフレーズを掲載することで、児童が主体的に価値の意義や大切さへの理解を深め、自分との関わりで考えられるよう工夫されている。 ○「深めよう」では、授業の流れを示し、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に思考を広げられるよう工夫されている。「考えよう」では、より深く教材について考える発問が示され、自己を見つめて考えるきっかけになるよう工夫されている。 ○特設ページ「心のパスポート」では、書いたり読んだりすることで考えを深め、巻末にこれまでの振り返りや心に残った言葉などを記述し、学びを振り返られるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近なテーマとつながる「現代的な課題マーク」を各教材に示し、児童を取り巻く社会や環境に目を向けながら、自己の生き方について考えを深められるよう工夫されている。 ○「いのち」「多様性」「キャリア」の3つのテーマを、全学年で2教材を連続して学べるよう配置し、内容項目の異なる教材を取り上げることで、児童がよりよく生きることについて様々な側面から考えられるよう工夫されている。 <p>＜発達段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年間を通して、巻末「つなげよう ひろげよう」では、自らの成長を感じ取り、次の学年へスムーズな移行ができるよう工夫されている。 ○「いのち」を最重点テーマとして、全学年で内容項目の異なる複数教材を組み合わせ、様々な視点から多様な学びを実現し、考えを深められるよう工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の発展的資料として「深めよう」が設置されており、自分の考えを基に文章を記述したり、話し合ったりできるよう工夫されている。 ○特設ページ「心のパスポート」では、教材での学習をもとに、自分につなげて考えたり、体験したり、話題を広げたりできるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○現在活躍している人物や先人の生き方、児童の生活に関わることなど幅広いテーマが教材に取り上げられ、学習意欲を喚起できるよう工夫されている。 ○教材理解を助けるデジタルコンテンツが用意され、教材に関連したクイズ形式の動画などが見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年の配当漢字や固有名詞は全ての漢字に、前学年までに習った漢字は教材の初出にルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。目次と索引については4つの視点を色分けして示し、索引は内容項目ごとに分類して示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主題名を巻末に提示し、児童が問題意識を大切にしながら、自ら主体的に学びを深めることができるよう工夫されている。 ○「深めよう」「心のパスポート」を設け、多様な視点から身近な話題について考え、「考え、議論する道徳」を実現できるよう工夫されている。 ○詩、漫画教材、スポーツ選手、先人の伝記を題材にした教材がある。 	

道徳科 調査資料 2

○総ページ数

※「日文」は、道徳ノートが別冊となっている。

※ 目録掲載
の判型及び
ページ数

学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
判型	AB	AB	B5変型	AB	AB	AB
1年	146	161	135	154+46	162	142
2年	162	161	167	170+46	178	150
3年	178	169	185	186+46	186	158
4年	180	169	193	190+46	190	166
5年	188	185	197	186+46	194	162
6年	196	185	215	194+46	194	170

○教材総数及び内容項目の配当数

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
教材総数	1年	34	34	34	37	40	34
	2年	35	35	35	38	40	35
	3年	35	35	35	38	40	35
	4年	35	35	35	38	40	35
	5年	35	35	35	38	40	35
	6年	35	35	35	38	40	35
善悪の判断、自律、自由と責任	1年	2	2	2	3	2	3
	2年	2	2	2	3	2	3
	3年	2	2	2	3	2	3
	4年	2	2	2	3	2	3
	5年	2	2	2	2	2	3
	6年	1	2	2	2	2	3
正直、誠実	1年	1	2	2	1	2	1
	2年	2	2	2	2	1	2
	3年	1	2	2	1	1	1
	4年	2	2	2	1	1	1
	5年	1	1	2	1	2	1
	6年	1	1	1	1	1	1
節度、節制	1年	3	3	2	4	4	3
	2年	4	3	2	3	4	2
	3年	2	3	2	3	3	2
	4年	2	2	2	3	2	1
	5年	2	2	2	2	1	1
	6年	2	1	1	2	1	1
個性の伸長	1年	2	2	2	2	2	2
	2年	1	2	2	1	1	3
	3年	1	1	2	2	2	1
	4年	1	1	2	1	1	2
	5年	1	1	1	2	1	1
	6年	1	1	1	2	1	1
希望と勇気、努力と強い意志	1年	2	1	2	1	1	2
	2年	2	2	2	2	2	2
	3年	2	1	1	2	2	2
	4年	2	2	1	1	2	2
	5年	2	2	2	1	2	2
	6年	2	2	2	2	3	2
真理の探究	1年						
	2年						
	3年						
	4年						
	5年	1	2	1	1	1	1
	6年	1	1	1	1	1	1

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
親切、思いやり	1年	3	2	2	3	2	3
	2年	3	2	2	3	4	3
	3年	3	2	2	3	2	3
	4年	2	2	2	3	2	3
	5年	2	1	2	2	2	2
	6年	2	1	2	2	2	2
感謝	1年	2	2	2	1	2	1
	2年	1	2	2	2	1	1
	3年	1	2	2	2	2	1
	4年	1	2	2	1	2	1
	5年	1	1	2	1	1	1
	6年	1	2	2	2	1	1
礼儀	1年	2	2	2	2	3	2
	2年	2	2	2	3	2	2
	3年	1	2	1	2	2	1
	4年	1	2	1	2	1	1
	5年	1	1	1	1	1	1
	6年	1	1	1	1	1	1
友情、信頼	1年	2	2	2	2	2	2
	2年	2	2	2	1	3	2
	3年	3	2	2	2	3	3
	4年	3	2	2	2	3	3
	5年	2	2	2	3	2	2
	6年	2	3	2	2	2	2
相互理解、寛容	1年						
	2年						
	3年	1	1	2	1	2	1
	4年	1	2	2	2	3	1
	5年	1	1	2	2	2	2
	6年	1	1	2	2	2	2
規則の尊重	1年	3	2	2	3	3	2
	2年	2	2	2	3	2	2
	3年	2	2	2	3	3	2
	4年	2	1	2	3	2	2
	5年	2	2	2	2	2	1
	6年	2	1	2	2	2	2
公正、公平、 社会正義	1年	1	1	2	2	2	2
	2年	1	2	2	2	1	2
	3年	1	1	2	2	1	2
	4年	1	2	2	2	2	2
	5年	1	3	1	2	2	2
	6年	1	2	2	2	3	2
勤労、 公共の精神	1年	1	2	1	1	1	1
	2年	1	1	2	2	2	1
	3年	2	1	2	2	1	1
	4年	2	1	2	2	3	1
	5年	2	1	1	2	2	1
	6年	2	1	1	2	2	1
家族愛、 家庭生活の充実	1年	1	2	2	1	2	1
	2年	2	2	1	1	2	1
	3年	2	2	1	1	2	1
	4年	2	2	1	1	2	1
	5年	1	2	1	1	2	1
	6年	1	2	1	1	2	1
よりよい学校生 活、集団生活の 充実	1年	1	2	2	2	2	1
	2年	2	2	2	1	1	1
	3年	1	1	2	1	1	1
	4年	1	1	2	1	2	1
	5年	2	1	2	2	1	1
	6年	2	2	2	2	1	1

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	1年	1	2	1	2	2	1
	2年	1	2	1	2	3	1
	3年	2	3	1	2	2	2
	4年	2	2	1	2	2	2
	5年	2	2	1	2	3	2
	6年	2	2	1	2	3	2
国際理解、国際親善	1年	1	1	1	2	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1
	3年	1	2	1	1	2	2
	4年	1	1	1	2	1	2
	5年	2	2	1	2	2	2
	6年	2	2	1	2	2	2
生命の尊さ	1年	3	2	3	3	3	3
	2年	3	1	3	3	3	3
	3年	3	3	3	3	4	3
	4年	3	2	3	3	3	3
	5年	3	2	3	2	3	3
	6年	3	2	3	2	3	3
自然愛護	1年	2	1	1	1	2	2
	2年	2	2	1	1	2	2
	3年	2	1	1	1	2	1
	4年	2	2	1	2	3	2
	5年	2	2	1	1	2	2
	6年	2	2	1	1	2	2
感動、畏敬の念	1年	1	1	1	1	2	1
	2年	1	1	1	2	2	1
	3年	2	1	1	1	1	2
	4年	2	2	1	1	1	1
	5年	1	1	1	1	1	1
	6年	2	1	1	1	1	1
よりよく生きる喜び	1年						
	2年						
	3年						
	4年						
	5年	1	1	1	2	3	2
	6年	1	2	2	2	2	1

〇QRコードの数

※「日文」は、道徳ノートが別冊となっている。

学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
1年	40	38	21	40+43	10	13
2年	45	41	24	41+43	7	12
3年	53	61	31	43+44	10	11
4年	50	65	32	42+44	13	12
5年	56	73	28	41+44	14	11
6年	57	74	30	43+44	12	12

○教材総数及び内容項目の配当数

題材	学年	東書	教出	光村	日文	光文	学研
題材延べ数	1年	88	39	51	48	71	55
	2年	92	43	56	51	74	56
	3年	82	52	55	53	77	51
	4年	102	49	59	53	71	50
	5年	116	53	54	57	79	56
	6年	141	51	57	57	85	54
生命の尊厳	1年	6%	8%	6%	6%	3%	13%
	2年	5%	7%	5%	6%	5%	14%
	3年	5%	8%	5%	6%	5%	10%
	4年	6%	10%	5%	6%	4%	10%
	5年	4%	4%	7%	4%	8%	13%
	6年	6%	6%	7%	4%	13%	11%
自然	1年	8%	5%	2%	6%	3%	2%
	2年	5%	7%	4%	4%	7%	2%
	3年	4%	4%	5%	4%	3%	2%
	4年	5%	4%	5%	4%	3%	2%
	5年	4%	9%	4%	9%	4%	2%
	6年	4%	10%	2%	4%	6%	2%
伝統と文化	1年	2%	5%	2%	4%	4%	4%
	2年	3%	5%	4%	2%	4%	2%
	3年	7%	6%	2%	13%	4%	2%
	4年	1%	2%	3%	2%	4%	6%
	5年	3%	4%	6%	4%	4%	4%
	6年	3%	6%	2%	5%	4%	7%
先人の伝記	1年	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	2年	2%	0%	2%	2%	0%	0%
	3年	4%	0%	0%	0%	1%	2%
	4年	1%	2%	2%	2%	0%	4%
	5年	6%	8%	4%	5%	1%	4%
	6年	8%	6%	2%	5%	2%	6%
スポーツ	1年	1%	0%	2%	4%	1%	2%
	2年	2%	2%	2%	2%	1%	4%
	3年	2%	2%	0%	4%	3%	4%
	4年	3%	2%	3%	0%	4%	2%
	5年	2%	2%	0%	2%	1%	2%
	6年	1%	2%	2%	4%	2%	4%
現代的な課題 (いじめ)	1年	9%	15%	10%	25%	15%	22%
	2年	5%	12%	9%	24%	8%	14%
	3年	7%	15%	11%	19%	13%	18%
	4年	4%	6%	7%	17%	13%	16%
	5年	3%	8%	9%	21%	11%	14%
	6年	3%	12%	7%	21%	11%	13%
現代的な課題 (情報モラル)	1年	1%	3%	2%	4%	3%	2%
	2年	1%	2%	2%	6%	3%	2%
	3年	2%	4%	2%	4%	3%	2%
	4年	2%	4%	2%	4%	3%	2%
	5年	1%	6%	2%	9%	4%	4%
	6年	1%	6%	2%	9%	5%	4%
現代的な課題 (消費者教育、 防災教育等)	1年	23%	13%	14%	6%	25%	13%
	2年	22%	12%	11%	6%	26%	14%
	3年	13%	31%	11%	15%	25%	18%
	4年	17%	35%	12%	13%	24%	12%
	5年	16%	38%	11%	9%	15%	21%
	6年	18%	29%	2%	12%	15%	17%
その他 (上記以外)	1年	50%	51%	63%	44%	45%	44%
	2年	53%	53%	52%	49%	46%	48%
	3年	55%	31%	64%	38%	44%	43%
	4年	62%	35%	61%	53%	45%	46%
	5年	60%	28%	57%	39%	52%	38%
	6年	55%	24%	65%	37%	42%	37%

※ %は、当該学年で取り上げている題材延べ数に占める割合を示す。

☆ 現代的な課題等：いじめ、情報モラル、消費者教育、防災教育、食育、人権、環境など

根拠法令

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（抄）

（昭和三十八年法律第百八十二号）

第三章 採択

（都道府県の教育委員会の任務）

第十条 都道府県の教育委員会は、当該都道府県内の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択の適正な実施を図るため、義務教育諸学校において使用する教科用図書の研究に関し、計画し、及び実施するとともに、市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う採択に関する事務について、適切な指導、助言又は援助を行わなければならない。

（教科用図書選定審議会）

第十一条 都道府県の教育委員会は、前条の規定により指導、助言又は援助を行なおうとするときは、あらかじめ教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）の意見をきかなければならない。

2 選定審議会は、毎年度、政令で定める期間、都道府県に置く。

(教科用図書の採択)

第十三条 都道府県内の義務教育諸学校(都道府県立の義務教育諸学校を除く。)において使用する教科用図書の採択は、第十条の規定によつて当該都道府県の教育委員会が行なう指導、助言又は援助により、種目(教科用図書の教科ごとに分類された単位をいう。以下同じ。)ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

2 都道府県立の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択は、あらかじめ選定審議会の意見をきいて、種目ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

(同一教科用図書を採択する期間)

第十四条 義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（抄）

（昭和三十九年政令第十四号）

（教科用図書選定審議会の設置期間）

第七条 教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）を置く期間は、四月一日から八月三十一日までとする。

（選定審議会の所掌事務）

第八条 選定審議会は、都道府県の教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議し、及び必要と認めるときは、これらの事項について都道府県の教育委員会に建議する。

一 市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う教科用図書の採択に関する事務について都道府県の教育委員会の行う採択基準の作成、選定に必要な資料の作成その他指導、助言又は援助に関する重要事項

二 都道府県の設置する義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択に関する事項

（同一教科用図書を採択する期間）

第十五条 法第十四条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間（以下この条において「採択期間」という。）は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）附則第九条第一項に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。

令和5年度埼玉県教科用図書選定審議会に対する諮問事項

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

市町村教育委員会等が行う教科用図書の採択に対して、県教育委員会が行う指導、助言又は援助の基本的考え方に関して、どのような点に留意すべきか、答申していただくようお願いするものである。

- 2 県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方について

県立義務教育諸学校で使用する教科用図書採択の基本的考え方について、どのような点に留意すべきか、答申していただくようお願いするものである。

県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について 行う指導、助言又は援助の基本的考え方

市町村教育委員会等の行う教科用図書の採択については、教育基本法、学校教育法、小学校・中学校・特別支援学校学習指導要領を踏まえ、関係法令や通知等に基づく公正かつ適正な採択が行われるよう、以下の考え方に基づき指導、助言又は援助を行う。

1 全般的事項

教科用図書の十分な調査研究を行い、関係者がその判断と責任のもと、自らの見識や判断等を基に、慎重かつ十分な協議を重ねることが重要であること。

協議に当たっては、児童生徒にとっての教育上の効果及び地域や学校、児童生徒の実態を考慮することが重要であること。特に、特別支援学校及び特別支援学級については、児童生徒の障害の状態や教育的ニーズ等を踏まえることが重要であること。

県が行う指導、助言又は援助の内容は、市町村教育委員会等の主体性を損なわないように留意することが重要であること。

「『質の高い教科書の実現と教科書採択の公正性・透明性を高めるために【ガイドライン】』の周知徹底について（通知）」（平成28年10月21日付け教義指第682号）を踏まえ、教科用図書の採択の公正性・透明性を高めるようにすることが重

要であること。

2 留意事項

様々な働き掛けにより公正かつ適正な採択に支障を来たすことがないよう、静ひつな環境の確保に努めることが重要であること。

教科用図書採択への疑念を生じさせないよう、会議の公開・議事録の公表を行い、透明性の確保に努めることが重要であること。

調査研究において、より広い視野からの意見を反映させるために、保護者等の意見を踏まえることに努めること。

3 資料の作成

採択の対象となる全ての教科用図書について、調査研究を行い、市町村教育委員会等の一般的な指針となるよう配慮しながら作成すること。

県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方

埼玉県立義務教育諸学校において使用する教科用図書の公正かつ適正な採択の確保を図るため、県立特別支援学校の教科用図書の採択に当たっては、以下の考え方に基づいて行う。

1 基本的な態度

- (1) 教育基本法、学校教育法、小学校・中学校・特別支援学校学習指導要領、埼玉県5か年計画、埼玉県教育振興基本計画及び埼玉教育の振興に関する大綱の内容を踏まえ、教科用図書を採択する。
- (2) 教科の主たる教材として、児童生徒にとって教育上効果的なものとなるよう、学校の特色や児童生徒の実態を踏まえた教科用図書を採択する。その際、以下の2に示す「調査研究の観点」及び3の「留意事項」を踏まえ、教科用図書の十分な調査研究を行う。
- (3) 児童生徒の障害の状態や教育的ニーズ等を考慮して採択する。

2 調査研究の観点

- (1) 組織・配列・分量について
学習指導を進める上で、内容の組織・配列・分量が効果的であること。

(2) 内容について

ア 各教科

(ア) 知識及び技能が習得されるようにするための効果的な工夫がなされていること。

(イ) 思考力、判断力、表現力等を育成するための効果的な工夫がなされていること。

(ウ) 学びに向かう力、人間性等をかん養するための効果的な工夫がなされていること。

イ 特別の教科 道徳

(ア) 現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫がなされていること。

(イ) 発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成するための効果的な工夫がなされていること。

(ウ) 「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する効果的な工夫がなされていること。

(3) 学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について

学習指導要領の教科の目標を達成するための効果的な工夫がなされていること。

(4) 資料について

写真・挿絵・図表・数表・地図・索引等が必要に応じて用意され、児童生徒に理解しやすいものであること。

(5) 表記・表現について

ア 記号・用語・単位等が、児童生徒に理解しやすいものであること。

イ 表現が明確で、児童生徒に理解しやすいものであること。

3 留意事項

(1) 学校の教育目標の達成に向け、適切であること。

(2) 学校の特色・児童生徒の実態及び保護者等の意見を踏まえたものであること。

(3) 児童生徒の生活、経験及び興味・関心等に対する配慮がなされていること。